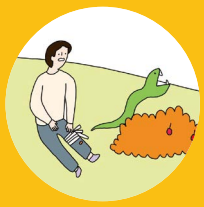






災害安全
ガイドブック





281 すべきこと　72 しないこと









災害は私たちが予想していない時に起きます。
いつもどう対応するか、常に関心を持って準備しなければなりません。 京畿道ではいつでも発生できる35種類の災害状況に対して、最小限、必ず分っておかなければならない281種類のすべきことと72種類のしないことをまとめました。
本災害安全ガイドブックが皆さんの安全に少しでも役に立つと思います。



災害安全
ガイドブック

281、すべきこと、72　しないこと

01 一般

消火器使用法 4
消火栓使用法 6
心肺蘇生法 8
我が家の災害に備えた物品 10

02 自然災害

台風豪雨/強風 12
洪水/浸水 16
大雪 20
寒波 22
黄砂 26
猛暑 28
地震 30
津波 32
山崩れ 34
日照り 36
落雷 38

03 社会災害

感染病 40
鉄道・地下鉄事故 44
化学物質事故 46
火災 48
山火事 50
建築物崩壊 52
爆発 54
テロ 56
停電 58
ガス事故 60
船舶事故 62
交通事故 64

04 生活安全

水遊びの安全規則遵守 66
登山安全規則遵守 70
抑留及び拉致時、対応要領 72
食中毒予防 74
エスカレーター/エレベーター安全規則遵守 76
火傷感電事故 78

05 特殊災害

戦争時の行動要領 80
化学兵器攻撃時の行動要領 82

06 その他

119通報要領 84
家族と一緒に作りましょう 85
災害に備え、私とうちの家族の情報 87
MEMO 90

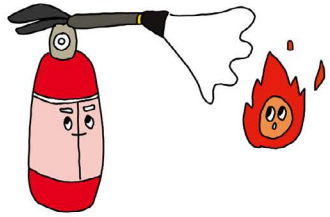
消火器使用法

DO　すべきこと

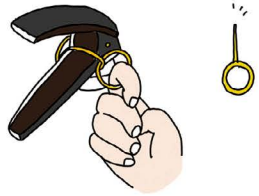
❶ よく見える所に置く。



❷ 小火のみ、使用



❸ 取っ手の前方の安全ピンを強く!



❹ ホースを持って取っ手を強く!

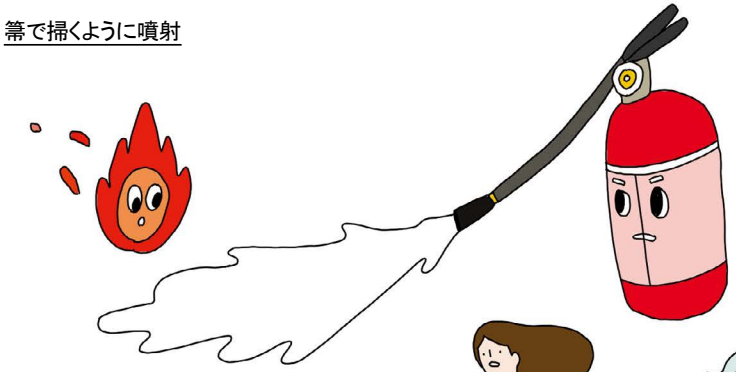


❺ 接近!



1 いつも目につく所に置く。
2 小火のみ、使用。
3 取っ手の前方の安全ピンを強く引き抜く。
4 ホースを持って取っ手を握る。
5 噴射後、火元に接近。
6 火の回りを噴射
7 風を背にして使用。
8 避難が容易になるように出入口を背にして使用。

❻ 箒で掃くように噴射



❼ 風を背にして
❽ 出入口を背にして



避難ができるように出入口を背にして使用
（すぐ出られるように）

しないこと　DO NOT

❶ 取っ手に注意

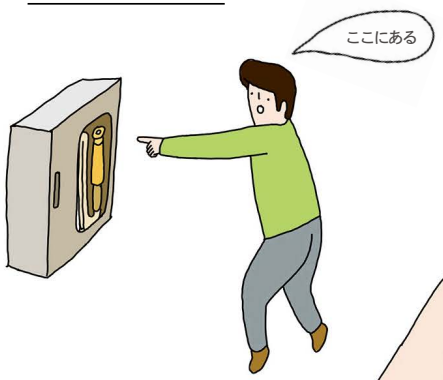


1 安全ピンを引き抜く時、取っ手を握ない(ピンが引き抜かない)。

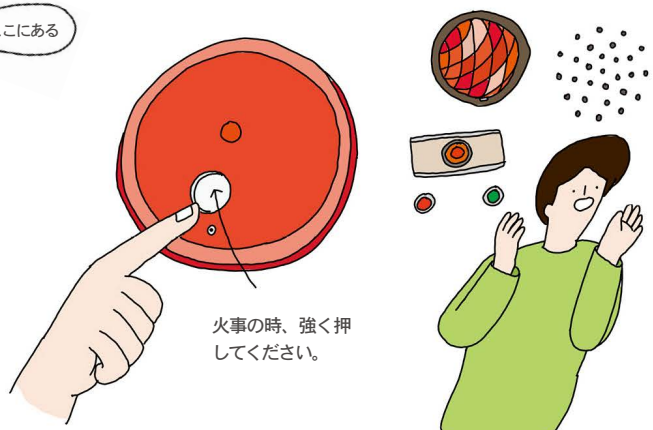
消火栓使用法

DO　すべきこと

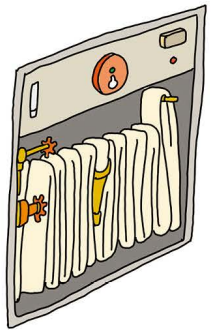
❶ 消火栓の位置を確認



❷ 火事のことを知らせる。



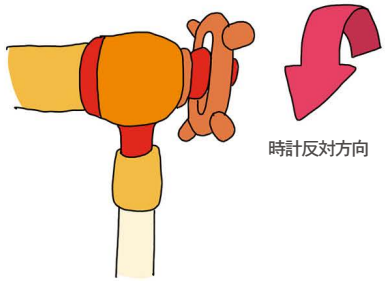
❸ 消火栓のドアを開ける。



❹ ホースを抜き出して、ノズルを持って。



❺ 左側にゆっくり



1 いつも近くの消火栓の位置を確認する。
2 非常ベルを押して、火事のことを知らせる。
3 消火栓のドアを開ける。
4 ホースを抜きだして、ノズルを持つ。
5 開閉バルブを左側にゆっくり回す。
6. 火に向けて放水する。
7 火事をおさめた後、開閉バルブを絞める。
8 ホースの中の水を抜きだして、干す。
9 ホースはジグザグ状で折り畳んで保管。

❻ 火に向けて！　水を放水



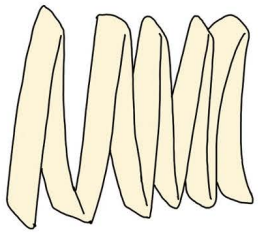
❼ 火事をおさめた後、開閉バルブを絞める。

❽ 水を抜き出して、干す



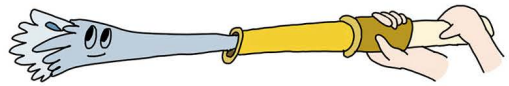
消火栓は、水圧が強すぎるので、ホースがからまり合ったり、畳まれる場合、怪我の恐れがありますので、ご注意ください。

❾ ホースはジグゼグ状に折り畳む。



しないこと　DO NOT

❶ ノズルを逃さない



1 水圧が強いなので、ノズルを逃さいようにご注意。

心肺蘇生法

DO　すべきこと

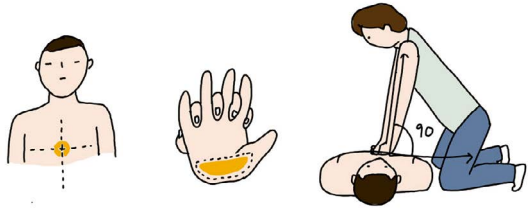
❶ 肩をたたきながら、反応を確認！

呼吸・意識確認

❷❸ 正確に指定して助けを要請



❹ 心臓マッサージ

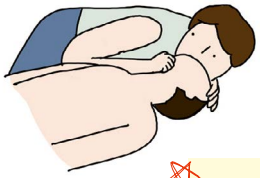


1 心臓マッサージの時、心窩を押さない。
2 心臓マッサージの時、ヒジを曲げない。
3 マッサージ速度が早すぎしないようにする。分当り100～120回 (1秒に2回または、2秒に3～4回ぐらい)

1 肩をたたいて反応を確認する。
2 周辺の人の中で、1人を指定、119に通報する。
3 他のもう一人に、自動体外式除細動器(AED)等、助けを要請する。
4 2秒に3-4回、5mの深みに心臓マッサージを30回を実施
・ヒジを伸ばして、腕を底と垂直に
5 気道を確報して、あごを上げて人工呼吸を2回実施
・心臓衝撃が必要な場合、音声指示に従って、行動
6 絶えずに、持続的に心臓マッサージを実施
7 119救急車が到着するまで、絶えずに続ける。
・2人以上のいる場合、交代で行う。
・人工呼吸ができない場合、持続的に心臓マッサージのみを行う。

❺ 人口呼吸は2回

心臓衝撃が必要な場合、自動体外式除細動器(AED)の音声指示に従って、行う。



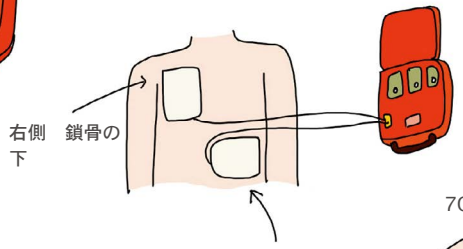
CPR手順
患者発見→反応確認→119通報→ 心臓マッサージを行う。

自動体外式除細動器(AED)の使い方

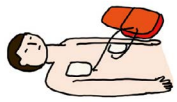
自動体外式除細動器（AED）



音声案内に従って、大人/子供を1次選択
患者の上着を脱がした後、汗と水気を除去



患者の心臓のリズムを分析する間





エラーが発生しないように患者の体から離れて待つ。

電気衝撃を行う時にも、患者から離れる。

❻ 持続的な心臓マッサージ

人口呼吸ができない場合



❼ 無限繰り返し

救急車が来るまで、心肺蘇生法を繰り返して行う



我が家の災害に備えた物品

DO　すべきこと

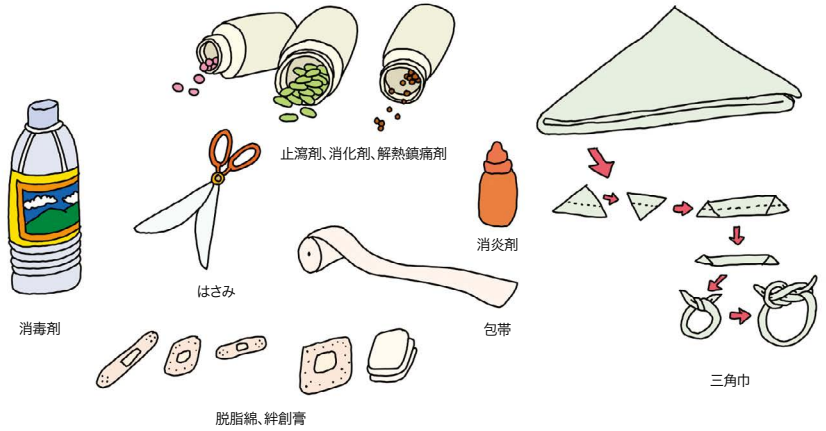
❶ 応急物品



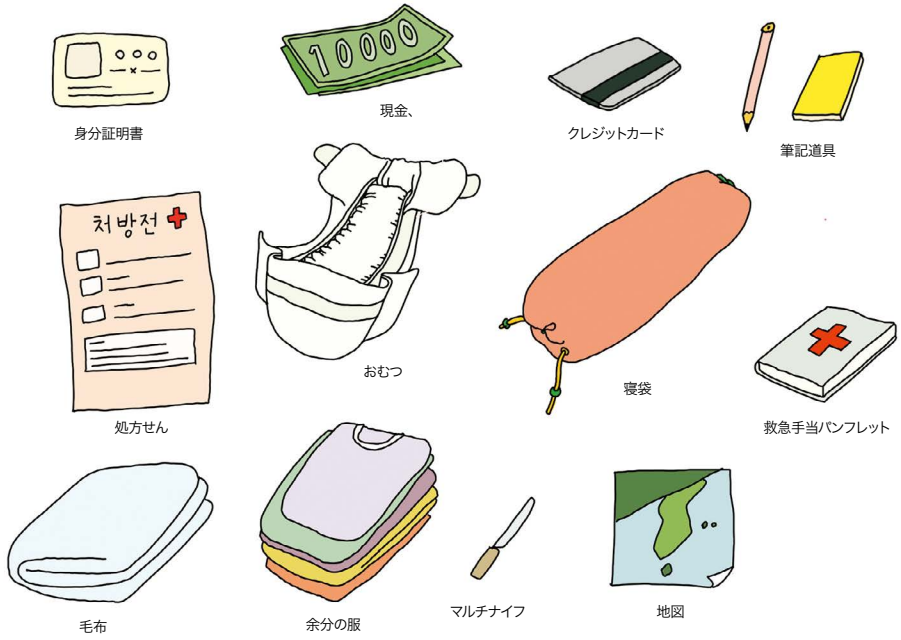
❷ 生活必需品



❸ 応急医薬品



❹ その他

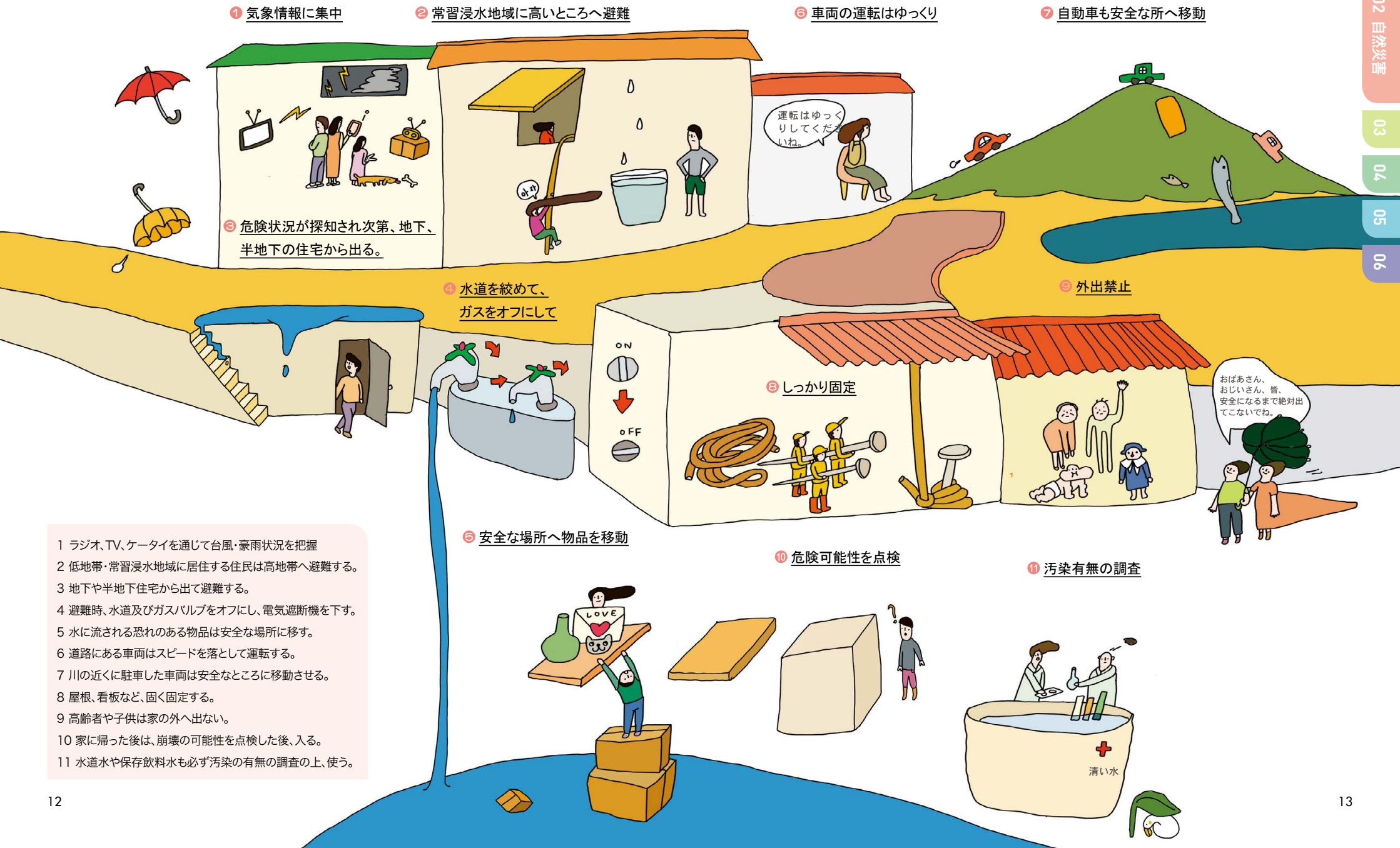


1 応急物品
救急かばん、化学兵器マスク、防塵マスク、アルミ毛布、非常ランプ、乾電池、ロウソク、保護用手袋、小型ラジオ、雨衣、底敷物、非常用充電器、ふえ、ライター、ライター、ケータイ等

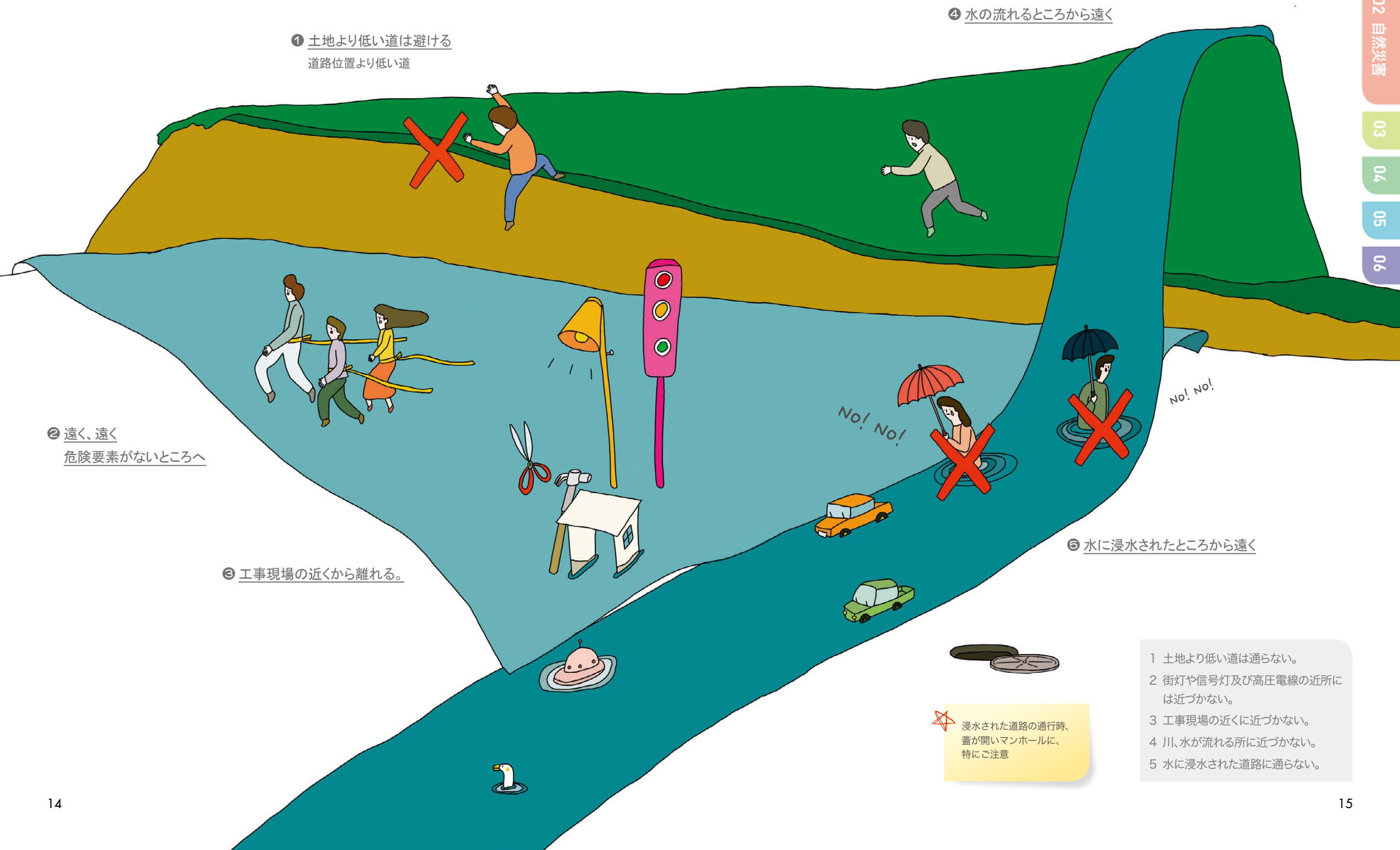
2 生活必需品
ティッシュ、水ティッシュ、歯ブラシ・歯磨き粉、石鹸、ハンカチ、使い捨てスプーンセット、生理用ナプキン、ミネラルウォーター500ml、缶詰等

3 応急医薬品
消毒剤、消化剤、解熱鎮痛剤、止瀉剤、消炎剤、はさみ、止血剤、ピンセット、包帯、脱脂綿、絆創膏、三角巾等

4 その他
身分証明書、現金、クレジットカード、処方せん、粉ミルク、おむつ、寝袋、毛布、余分の服、筆記道具、マルチナイフ、地図、救急手当パンフレットなど



1 ラジオ、TV、ケータイを通じて台風・豪雨状況を把握
2 低地帯・常習浸水地域に居住する住民は高地帯へ避難する。
3 地下や半地下住宅から出て避難する。
4 避難時、水道及びガスバルブをオフにし、電気遮断機を下す。
5 水に流される恐れのある物品は安全な場所に移す。
6 道路にある車両はスピードを落として運転する。
7 川の近くに駐車した車両は安全なところに移動させる。
8 屋根、看板など、固く固定する。
9 高齢者や子供は家の外へ出ない。
10 家に帰った後は、崩壊の可能性を点検した後、入る。
11 水道水や保存飲料水も必ず汚染の有無の調査の上、使う。



浸水された道路の通行時、
蓋が開いマンホールに、
特にご注意

1 土地より低い道は通らない。
2 街灯や信号灯及び高圧電線の近所には近づかない。
3 工事現場の近くに近づかない。
4 川、水が流れる所に近づかない。
5 水に浸水された道路に通らない。

豪雨 / 浸水

DO　すべきこと



1 低地帯・常習浸水地域に居住する住民は高地帯へ避難する。

2 ラジオ、TV、ケータイを通じて気象状況を把握

3 避難時、水道及びガスバルブをオフにし、電気遮断機を下す。

5 水に流される恐れのある物品は安全な場所に移す。

6 道路にある車両はスピードを落として運転、油断は禁物。

7 家に帰った後は、入る前に崩壊の可能性を優先して点検した後、入る。

8 水道水や保存飲料水も必ず汚染有無の調査の上、使う。

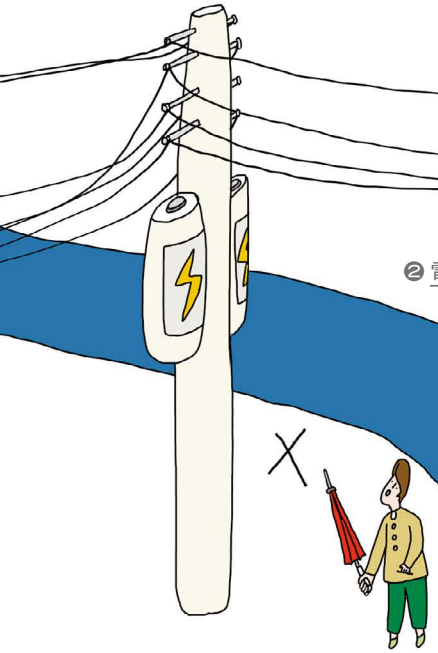
豪雨 / 浸水

DO NOT　しないこと

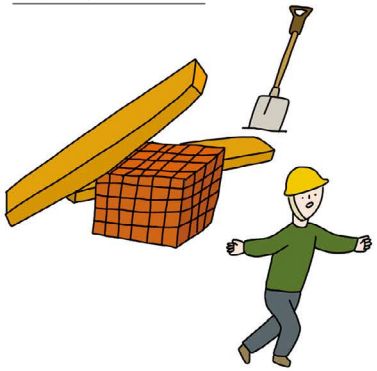
❶ 土地より低い道は避ける
道路位置より低い道



❷ 電信柱の近くに近づかない。



❸ 工事現場から離れる



❹ 水が流れるところから離れる。



❺ 水に浸水された道路を無理に通らない。



浸水された道路の通行の時、蓋が開いたマンホールに、特にご注意

1 土地より低い道は通らない。
2 街灯や信号灯及び高圧電線の近くに近づかない。
3 工事現場の近くに近づかない。
4 川、水が流れるところに近づかない。
5 水に浸水された道路を通らない。

大雪

DO　すべきこと

❶ 気象情報に集中！

❷ 公共交通機関を利用する

❸ 家族に行き先を知らせること。



❹ 転がらないようにご注意

特に、高齢者



❺ 大通りを利用する



1 ラジオ、TV、携帯電話を通じて気象状況を把握。
2 外出時、できるだけ公共交通を利用する。
3 一人で出かけず、家族に行き先を知らせる。
4 転倒しないようにご注意
5 狭い道路よりは大きい道路を利用する。
6 スノーチェーン、塩化カルシウムなど、車両の越冬用品を準備する
7 家の近くの道端、屋根などの雪を掻き除く
8 車両の低速運行及び車間の安全距離を維持する。
9 一人暮らしの家族、お隣りの人の面倒を見る。
10 孤立に備えて食糧及び燃料準備

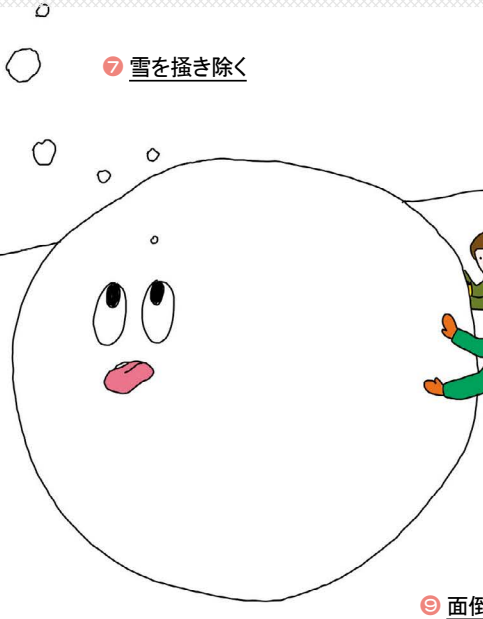
❻ 越冬用品を準備する



摩耗されたタイヤ交替が必需！

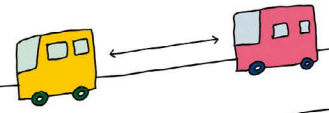
冬には空気の圧力が低くなるので、適正値より10%高い空気圧を維持！

❼ 雪を掻き除く



大雪なら、ギアーを2段階に置いて出発したら、空回転にならず、滑り防止効果がある。

❽ 安全距離維持



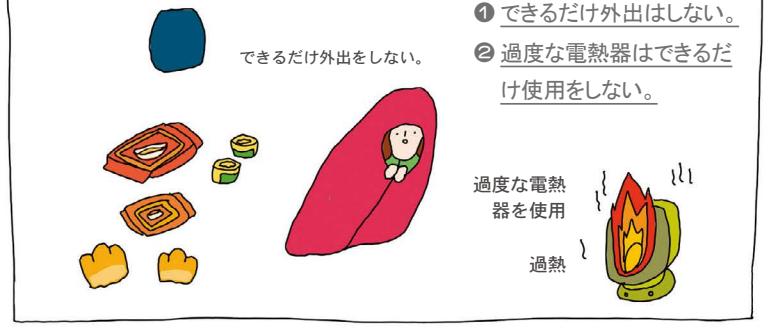


❾ 面倒を見る



❿ 食糧と燃料の準備

しないこと　DO NOT



❶ できるだけ外出はしない。
❷ 過度な電熱器はできるだけ使用をしない。

1 できるだけ、外出をしない。
2 電熱器を過度に使用しない。(過負荷のよる火事及び停電発生の可能性が高くなる)

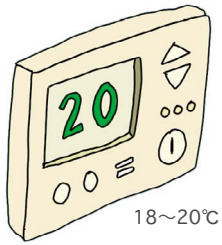
寒波

DO　すべきこと

❶ 気象情報に集中！

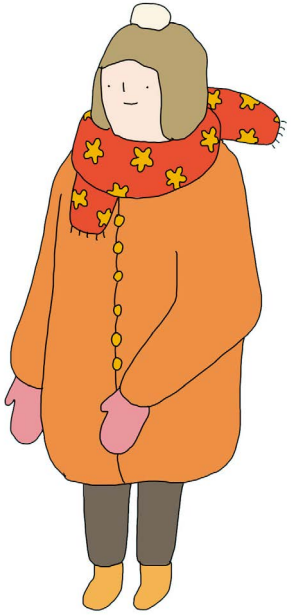


❷ 温度維持

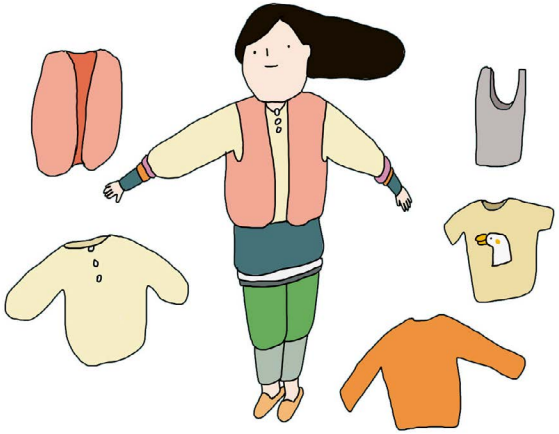


18～20℃

❸❹ 体温維持

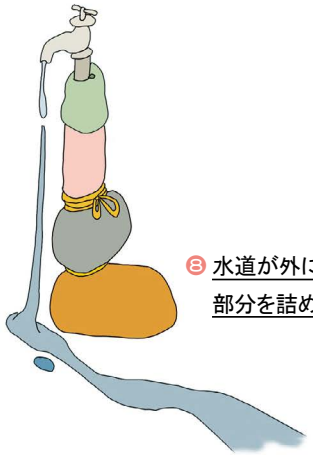


❺ 重着る!

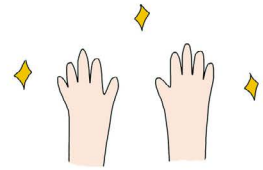


1 ラジオ、TV、携帯電話を通じて気象状況把握
2 室内の適正温度を維持。
3 凍傷にかからないように体温維持(外出の時)
4 帽子、マフラー、手袋等で体温維持(特に頭の部位)。
5 薄い服を重着ることが効果的
6 長期間外出時、水道蛇口を弱く開けておく。
7 帰ってきてから手と足を洗う。
8 水道計器機の内部は古い服で詰めて外部は密閉する。
9 一人暮らしの家族とお隣りの人の面倒を見る。
10 疲れがたまらないように休息を取る。

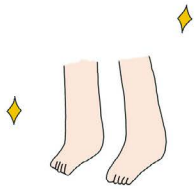
❻ 水道の蛇口を弱く開けておく。



❼ 綺麗に
寒いほど衛生を徹底に



❽ 水道が外にあったら、内と外の部分を詰めて密閉する。



しないこと　DO NOT

❶ 電熱器を過度に使用しないこと。
たこ足配線の使用をおやめ、過熱しているかどうかにいつもご注意。



1 電熱器を過度に使用したら、過負荷のため、火事及び停電発生の可能性が高くなる。



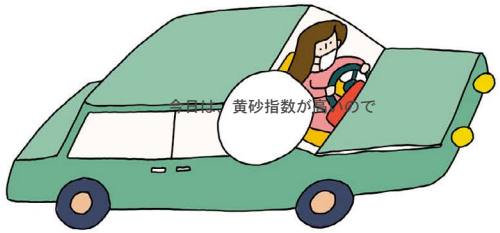
1 ラジオ、TV、携帯電話を通じて気象状況把握
2 室内の適正温度を維持
3 凍傷にかからないように体温維持(外出の時)
4 帽子、マフラー、手袋等で体温維持(特に頭の部位)
5 薄い服を重着することが効果的。
6 長期間外出時、水道蛇口を弱く開けておく。
7 帰ってきてから手と足を洗う。
8 水道計器機の内部は古い服で詰めて外部は密閉する。
9 一人暮らしの家族とお隣りの人の面倒を見る。
10 疲れがたまらないように休息を取る。

寒い日、お酒を飲んで外で眠っている方はいないか、いつもチェックし、助けが必要な保津ような状況であれば、112に通報する。

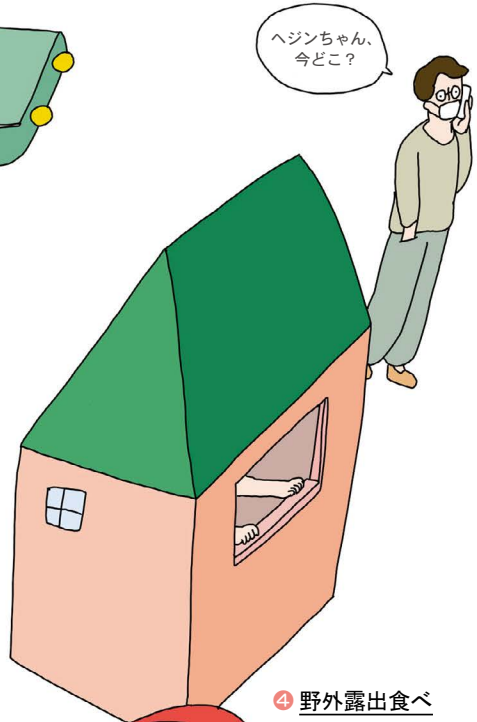
黄砂

DO　すべきこと

❶ 黄砂も同様に気象情報を確認



❷ 外出の時、マスクなどを着用する。



❸ 窓を閉める



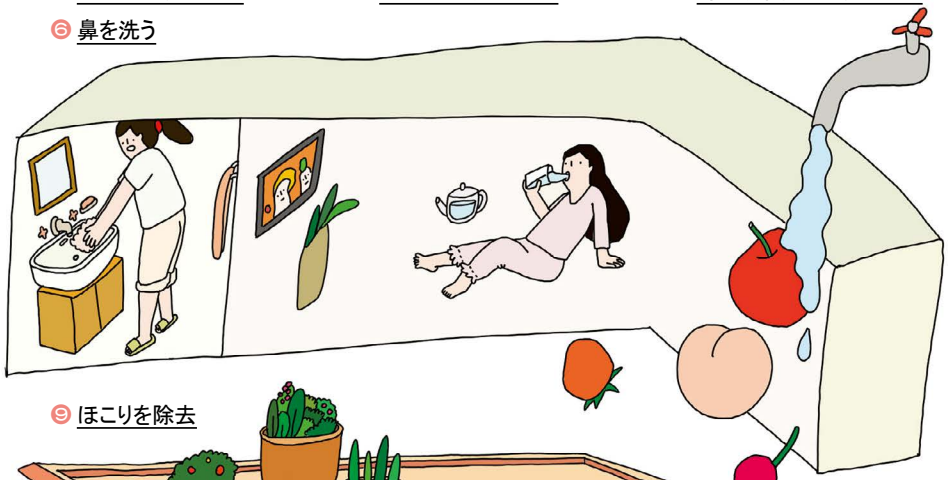
❹ 野外露出食べ物にご注意



美味しいが、
少し、
我慢する。

1 ラジオ、TV、携帯電話を通じて気象状況把握
2 室内の適正温度を維持
3 凍傷にかからないように体温維持(外出の時)
4 帽子、マフラー、手袋等で体温維持(特に頭の部位)
5 薄い服を重着することが効果的
6 長期間外出時、水道蛇口を弱く開けておく。
7 帰ってきてから手と足を洗う。
8 水道計器機の内部は古い服で詰めて外部は密閉する。
9 一人暮らしの家族と隣りの人の面倒を見る。
10 疲れがたまらないように休息を取る。

❺ 手足を綺麗に洗う
❻ 鼻を洗う
❼ 水を十分飲むこと。
❽ 野菜、果物を綺麗に洗う



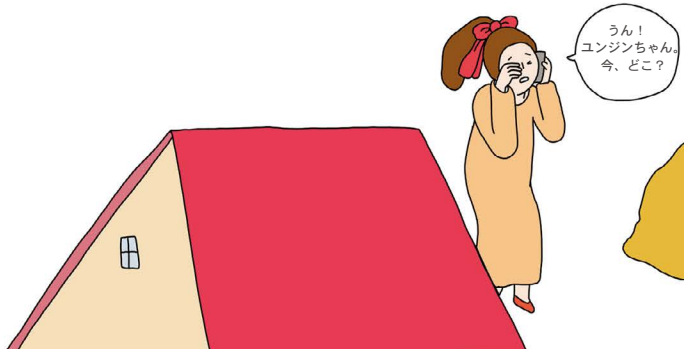
❾ ほこりを除去
❿ 室内の湿気調節

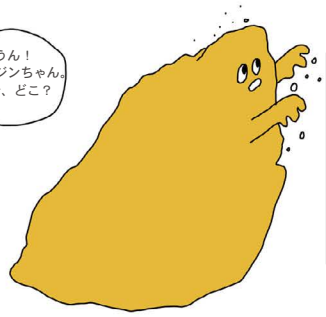




しないこと　DO NOT

❶ できるだけコンタクトレンズをおやめください。
❷ 目を触らないこと。
❸ 高齢者や子供の外出はなるべくおやめください。





1 できるだけコンタクトレンズをおやめください。(レンズに異物が入る可能性が高くなります)
2 外出した時は、手で目を触らない。
3 高齢者や子供の外出はなるべくおやめください。

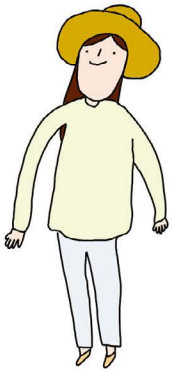
猛暑

DO　すべきこと

❶ 気象情報を確認



❷ 軽い服



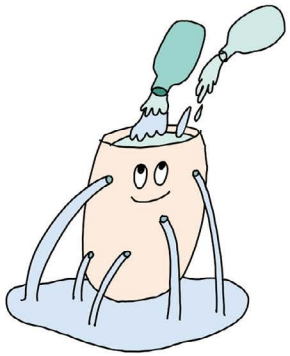
❸ 近隣の人を面倒を見る
高齢者、子供等



❹ 軽い昼寝



❺ 水をよく飲む



❻❼ 断水及び停電に備える



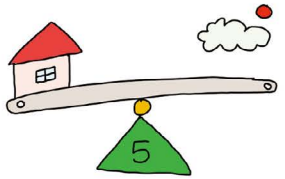
1 ラジオ、TV、携帯電話を通じて気象状況把握
2 外出時、軽い服装(明るい色、薄い長袖、ロングズボン/日光露出を最小化する)
3 一人暮らしの家族とお隣りの人の面倒を見る。(子供、高齢者、患者など)
4 軽い昼寝する。
5 水をよく飲む(汗で普段より多くの量の水分が排出されるので)
6 断水に備え、、ミネラルウォーター及び生活用水を準備
7 停電に備え、(電気使用急増に備え、懐中電灯(携帯用ラジオなど確認)
8 休息は短く、よく行う
9 室内外の温度差5℃内外を維持する。(26-28℃が適当)

❽ 休憩は短く、よく

暑いこそ、
よく休憩すべきです。



❾ 室内外の温度差を維持



しないこと　DO NOT

❶ 車内に子供を絶対、一人にさせないこと。



❷ 遠くへ出かける



空気が通らない場所は特にご注意。

❸ 野外活動は、なるべくおやめください。



❹ コーヒー、お酒はできるだけおやめください。

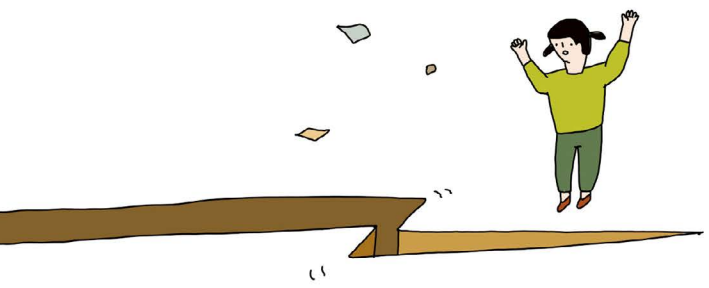


1 車内に子供を絶対、一人にさせない。
2 密閉された作業場は避けてください。
3 野外活動をはなるべくおやめください。
4 コーヒー、お酒を飲まない(体内水分を取って、減少させます。)

地震

DO　すべきこと

❶ 揺れが止まってから行動



❷ 正しい案内放送情報によって行動

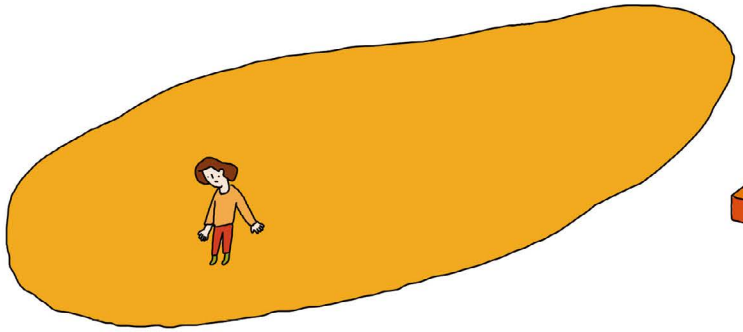


❸ 先ず、お体を保護！ 出口を確認後、外へ避難



❹ 頭を保護しながら、広いスペースへ避難





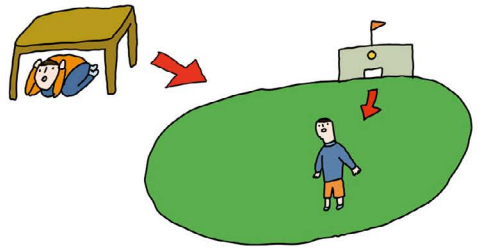
❺ エレベーター

全ての層を押して、一番早く開く層に避難



❻ 学校

先ず、机の下の方に避難し、揺れが止まったら運動場等、落石危険がないところに移動。



❼ 近くのマート等

ショーケース等、落下物を最優先に避けて、揺れが止まったら外へ移動

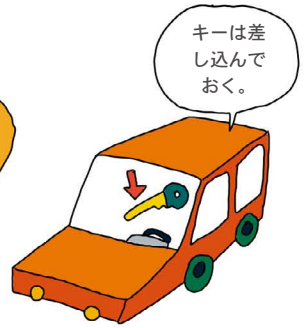
❽ 電車

先ず、安全な柱を握って案内に従って行動



❾ 運転中

道路の一方向に車を止めて避難



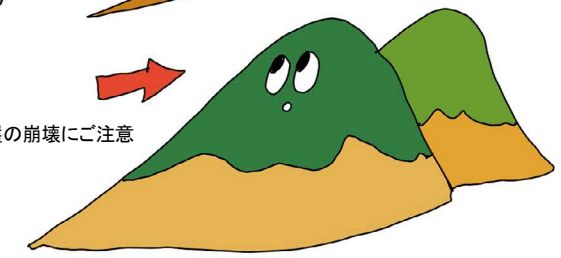
1 揺れが止まってから行動
2 ラジオや案内放送情報等、正しい情報によって行動する。
3 **家の中** 家のテーブル下へ入り、体を保護の後、ガス・電気を遮断し、出口を確保して外へ避難
4 **家の外** カバンや手で頭を保護して建物から離れて、運動場等、広い空間へ移動
5 **エレベーター** すべての層を押して一番早く開く層に降りて、階段を利用して避難
6 **学校** 机の下へ避難した後、運動場へ移動
7 **マートなど** ショーケースから落ちる物を避けて、階段や柱の近くに移動し、揺れが止まったらそとへ避難
8 **電車** 手すりや柱を握って、電車が止まったら、案内に従って避難
9 **運転中** 道路の右側に止めて、キーを差し込んでおいて避難
10 **山、海** 山崩れ、雪壁の崩壊にご注意、津波特報が発令の時、高い所へ移動

DO NOT　しないこと

❶❷ 避難の時、車両は利用禁止

❿ 山や海

山崩れ、崖の崩壊にご注意



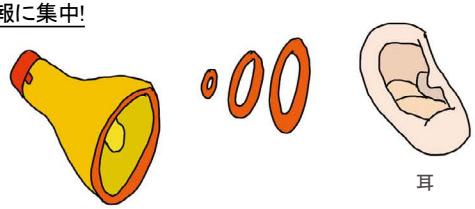
亀裂のご注意

1 車に乗って建物や高圧電線の下を通らない。
2 避難の時、車を利用しない。(緊急車両の通行妨害)

❶ 高地帯へ避難

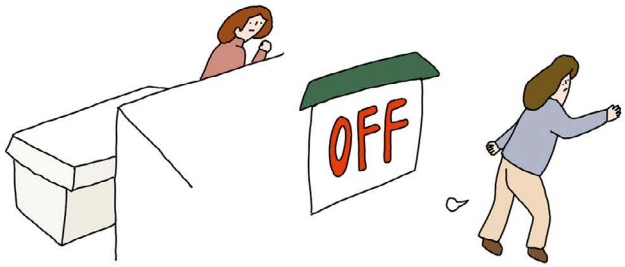


❷ 津波情報に集中!



❸ 避難する
地下や半地下住宅の場合

❹ 水道及びガスバルブをオフにして、電気遮断機を下す。



1 海岸低地帯に居住する住民は高地帯へ避難
2 ラジオ、TV、携帯電話を通じて津波警報などを注意深く聞く。
3 地下や半地下住宅から避難する。
4 避難の時、水道及びガスバルブをオフにして、電気遮断機を下す。
5 水に流される危険のある重要な物は、安全な場所に移す。
6 お隣りの避難の可否を確認する。
7 断水、停電に備えて水、食糧、懐中電灯、ラジオを準備。
8 浜辺から遠く避難する(土地が揺れたり、突然水のおぼれて床が現われる場合)。
9 津波特報が解除されて安全だと判断されるまで避難(約30cm程度の津波でも大人は歩きにくい)。
10 避難ができなかった場合、石や鉄筋コンクリートの建物に移動。

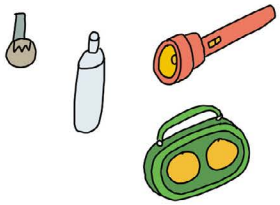
❺ 安全な場所に移動!



❻ お隣りの避難可否も確認



❼ 断水、停電に準備!

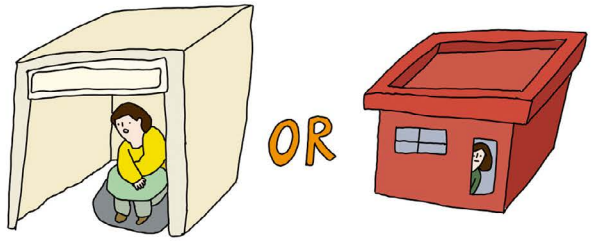


❽ 浜辺から遠く!



❾ まず安全なところへ避難

❿ 避難ができなかった場合、
レンガや鉄筋コンクリート建物に移動

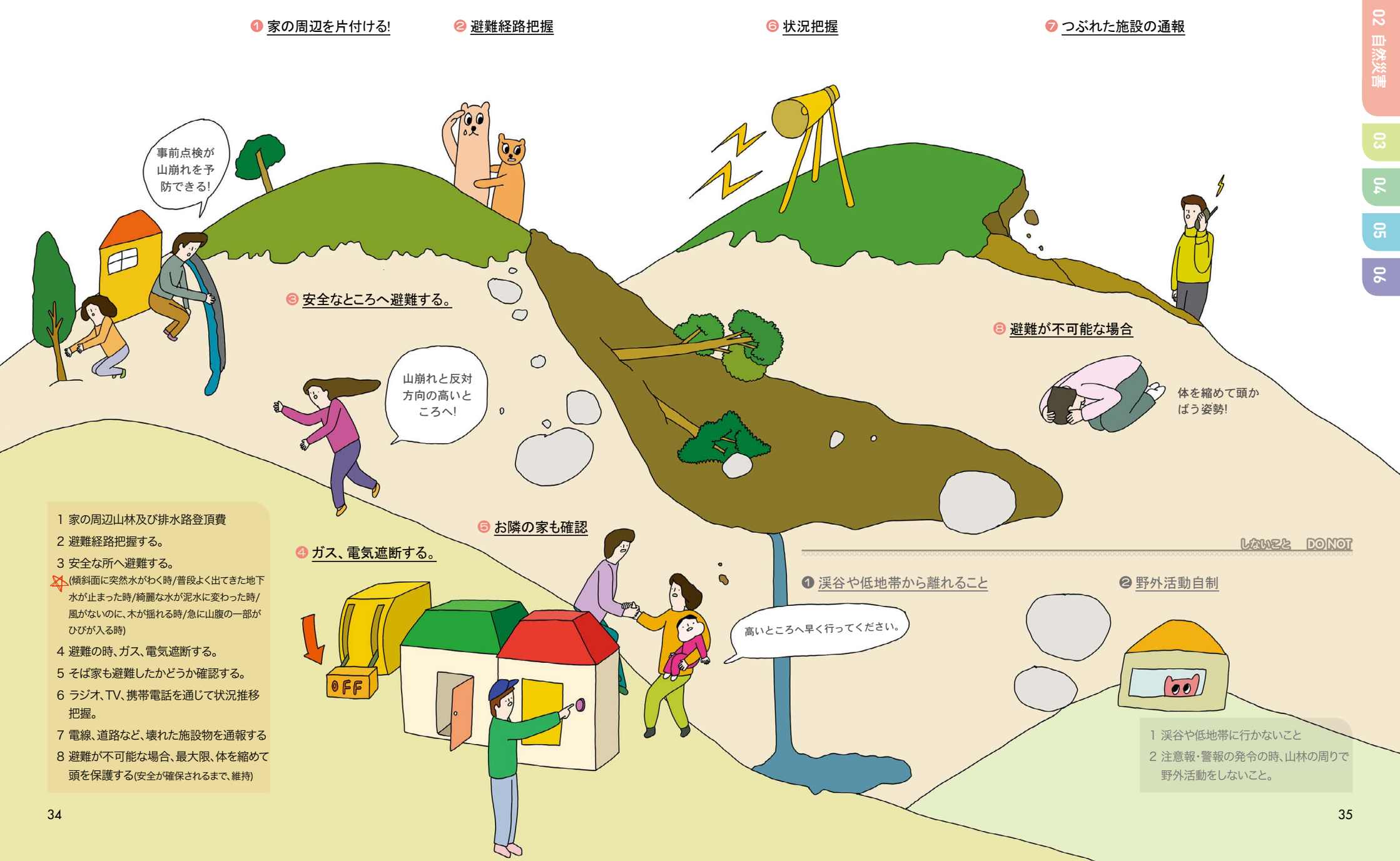


しないこと DO NOT

1 工事現場の近所に近寄らない
2 できるだけ、外出はしない。
3 津波は第1波が過ぎ去ったとしても、第2波、第3波の津波が来る可能性がありますので、急いで低地帯へ戻らない。

山崩れ

DO　すべきこと



1 家の周辺山林及び排水路登頂費
2 避難経路把握する。
3 安全な所へ避難する。
(傾斜面に突然水がわく時/普段よく出てきた地下水が止まった時/綺麗な水が泥水に変わった時/風がないのに、木が揺れる時/急に山腹の一部がひびが入る時)
4 避難の時、ガス、電気遮断する。
5 そば家も避難したかどうか確認する。
6 ラジオ、TV、携帯電話を通じて状況推移把握。
7 電線、道路など、壊れた施設物を通報する
8 避難が不可能な場合、最大限、体を縮めて頭を保護する(安全が確保されるまで、維持)

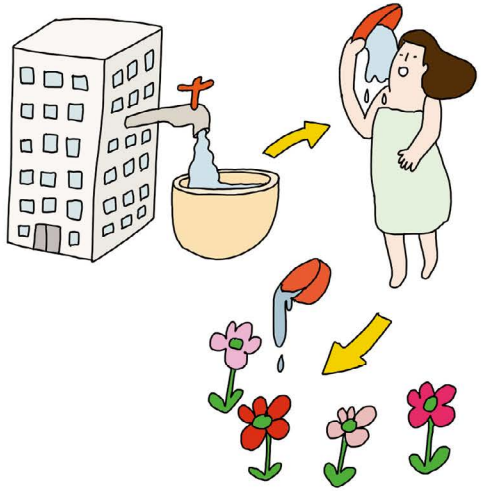
しないこと　DO NOT

❶ 渓谷や低地帯から離れること
❷ 野外活動自制

1 渓谷や低地帯に行かないこと
2 注意報・警報の発令の時、山林の周りで野外活動をしないこと。

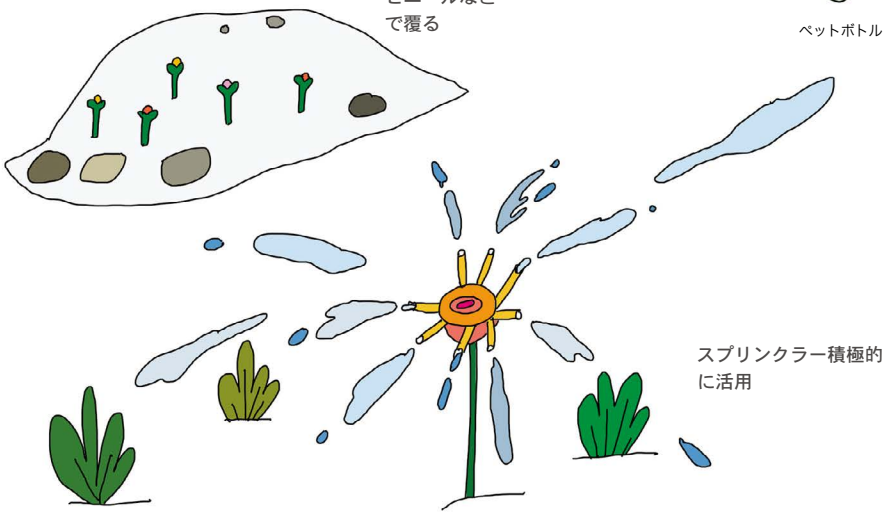
❶ 都会地域

水をリサイクルする。



❷ 農漁村地域

ビニールなど覆って水分の蒸発を最小化



❸ 生活の中で水節約

水使用の最小化に努力



1 都会地域
- 食器類の洗浄、顔洗い、シャワーの時、水を集めて使用
- 洗濯は一度に集めてする
- 庭、花畑に一度使用した水をリサイクルに努力
- 配管等を整備して水が漏れることを防ぐ。

2 農漁村地域
- 農作物にわら、ビニールなどを覆って土地の水分の蒸発を最小化
- 水がすぐ枯渇する所や水が不足な地域把握
- 水を引いてあげる施設(水路)や水を取り上げることができる装備(揚水機)などを点検
- 移動式スプリンクラーなどを使って農作物を枯れないようにすること

3 生活の中で水の節約
- 食器についた食物はティッシュで磨いた後、洗浄
- トイレ便器水桶にペットボトルやレンガを入れて使用
- シャワーは最大限、短く

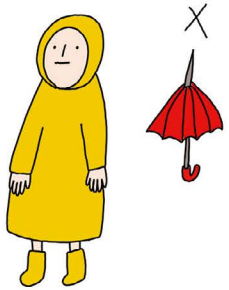
落雷

DO　すべきこと

❶ 気象情報確認



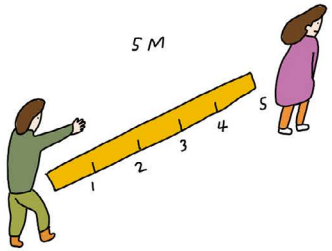
❷ 落雷時、傘よりレインコート!



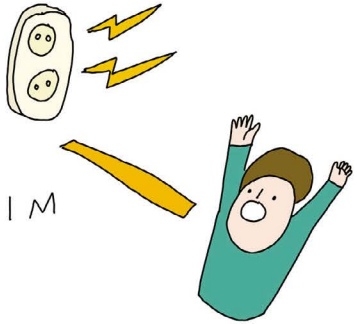
❸ 安全な場所へ避難



❹ お互いに間隔を置いて離れて移動



❺ 1m以上距離維持

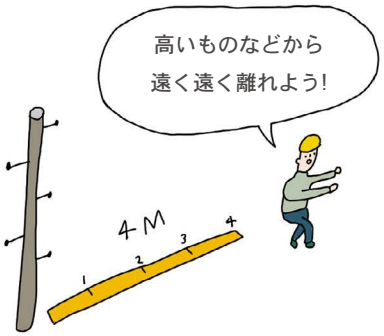


❻ 縮めた姿勢を維持する



1 落雷に対する気象情報を確認
2 傘よりはレインコートを準備
3 建物の中、自動車の中、洞窟など、安全な場所へ避難
4 避難時、互いに5m以上離れて移動
(落雷は周囲の人にも続けて危険を与えることができる)
5 家電製品のプラグを取り、1m以上の距離を維持
6 避難後、縮めた姿勢を維持
7 安全な場所でなければ、高い物(街灯、電信柱等)から4m以上、離れているところへ避難。
8 自動車にいた場合、止めて、そのままいる。
9 山の頂上、海辺など、解放された空間から離れる。

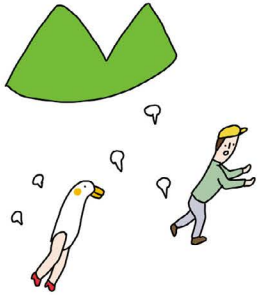
❼ 街灯、電信柱など高いものなどから避難



❽ 自動車の中にいたら、しばらくそのままいる。



❾ 解放された空間から離れる



❸ できるだけ外出はしない。



❹ 家中でやめること

シャワー、皿洗い、洗濯など

しないこと　DO NOT

❶ 窓や壁にもたれない
❷ なにげなく手を付けない

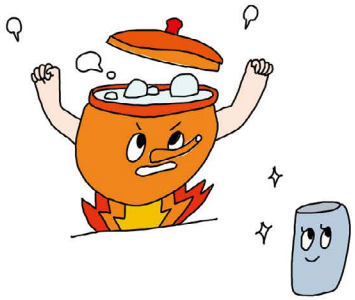


1 窓、壁などにもたらない。
2 金属物質に手を付けない
3 できるだけ外出はしない。
4 シャワー、皿洗い、洗濯などをしない
(配管等を通して電流が流れることができる)

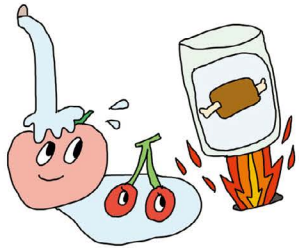
❶ きれいに



❷ 水は沸かして



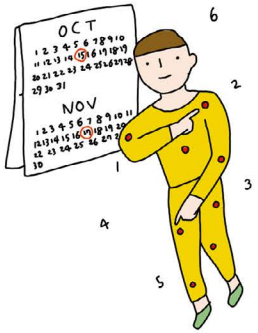
❸ 流れる水に洗って、火で調理する



❹ マスク着用



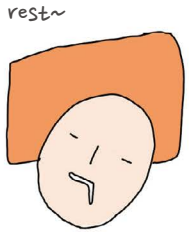
❺ 定期的体の状態をチェック



❻ 軽い運動



❼ 十分な睡眠



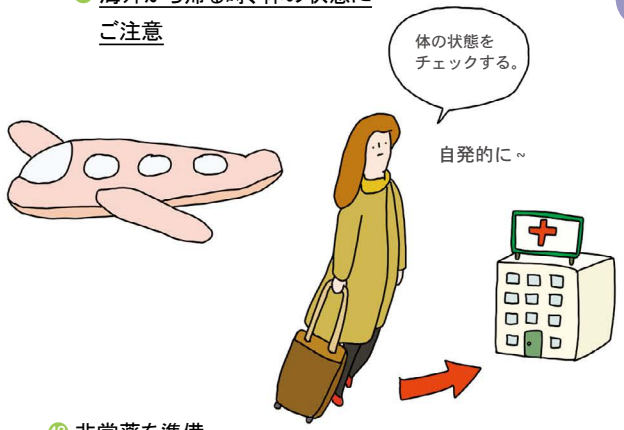
❽ 十分な水と食べ物



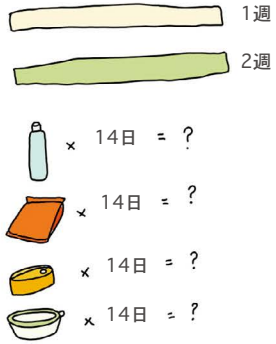
❾ 野外活動時長い服着用



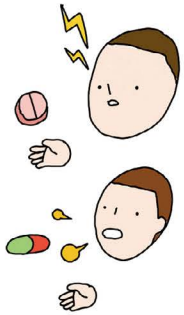
❿ 海外から帰る時、体の状態にご注意



⓫ 水と食糧を準備



⓬ 非常薬を準備



1 歯磨きをして手をよく洗う。
2 水は必ず沸かして飲む。
3 食材料は流れる水で洗って、十分、調理する。
4 マスク着用
5 周期的に体の状態チェック
6 軽い運動をする。
7 十分な睡眠を取る。
8 十分な水と食べ物を摂取9.　野外活動時、長い服を着る。
10 海外から帰国時、体の状態にご注意
11 全国的な拡散に備え、2週間分の水と食糧を準備
12 非常用の薬の鎮痛剤、せき薬など具備

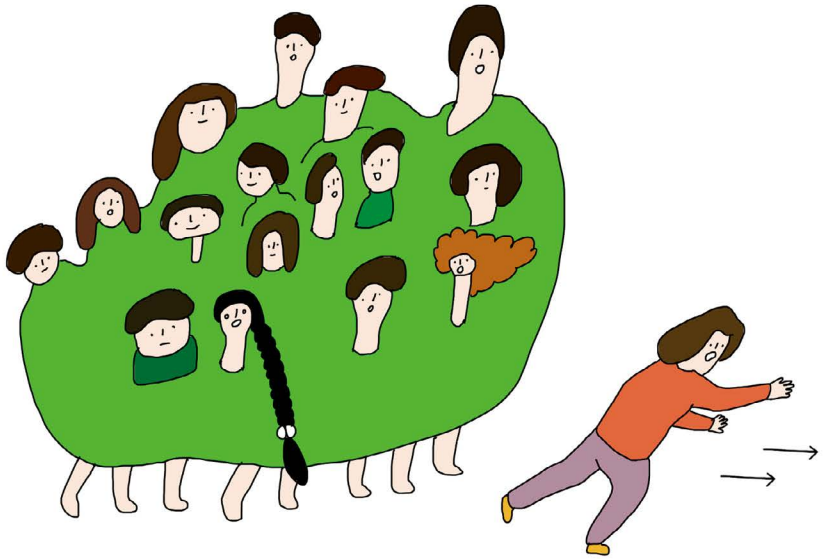
❶ 触らない



❷ 患者を触わらない。



❸ 人の多いところは避ける。



❹ 調理禁止



1 手で目、鼻、口を触らない
2 痛い人と接触しない
3 人の多いところを避ける。
4 下痢症状や手に傷のある人は料理をしないでください。

鉄道·地下鉄事故

DO　すべきこと

❶ 客車内の消火器で火を消す。



❷ 非常ボタンを押して、乗務員と連絡



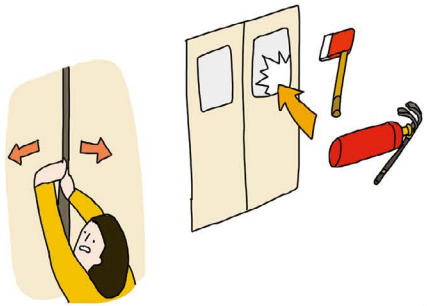
客車ごとに2個ずつある

❸ 地下鉄の出入り口を開ける方法

1 客車内に備えている消火器で消火
2 高齢者・障害人席のそば非常ボタンを押し、乗務員と連絡
3 地下鉄の出入り口の開け方
- 出入り口側の椅子の下、または、壁面に小さいふたをオープン
- 非常コックを引っ張ったり、赤色非常ハンドルを時計方向で90℃、回す
- 空気の抜ける音が止まるまで、3-10秒、待つ
- 出入り口を両側に開く

4 出入り口が開かない場合、ハンマや消火器でガラスを割る
5 停電時、誘導灯などが見られなければ、壁について、視覚障害者案内用点字ブロックをそって歩く。
6 鼻と口をティッシュ、タオル、袖などで当てて、非常口へ避難
7 停電時、落ち着いて携帯電話の懐中電灯機能を使用する。
8 地上への避難が難しい場合、電車の進行方向へ避難
9 スクリーンドアが開かない場合、赤色バーを押して出る。

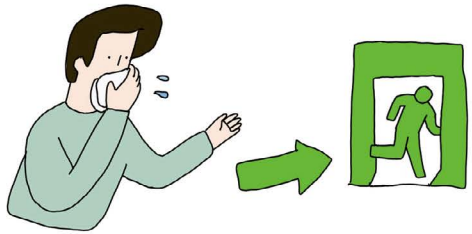
❹ 非常時、ガラスを破って脱出



❺ 避難誘導灯＋壁＋点字ブロック

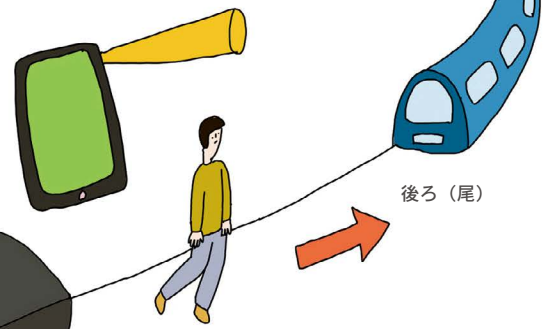


❻ 鼻と口をふさいで非常口へ避難



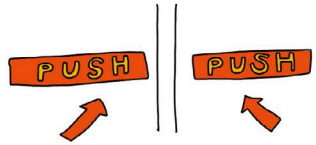
❼ 停電時携帯電話懐中電灯機能活性化

❽ 地上への避難が難しい場合、電車進行方向へ避難



❾ スクリーンドアが開かれない場合

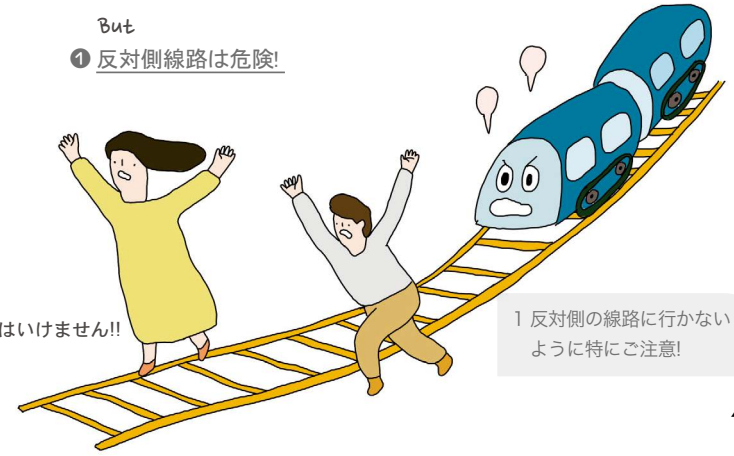
手動で押して開けて出て行く



しないこと　DO NOT

But

❶ 反対側線路は危険!



1 反対側の線路に行かないように特にご注意!

化学物質事故

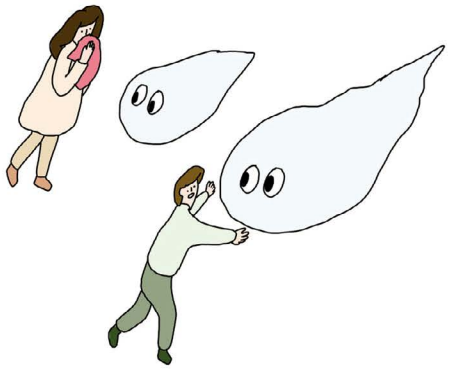
DO　すべきこと

❶❷ 携帯電話などで状況把握

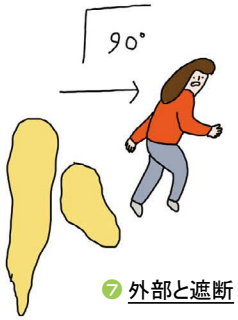


状況把握最優先!
体露出を最小化!

❸❹ 風が吹いてくる方向へ避難



❺ 風方向の直角で避難

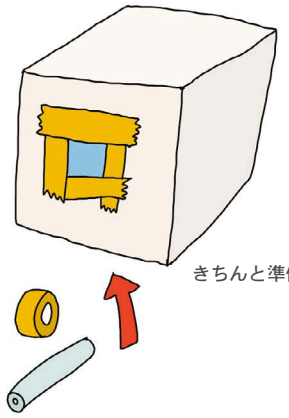


❻ 作動中止

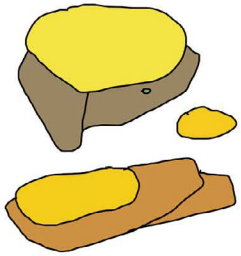


クーラー、
換気機など

❼ 外部と遮断



きちんと準備

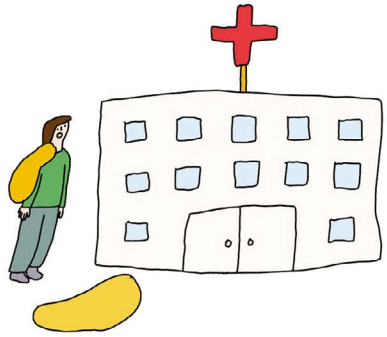


1 TV、ラジオ、携帯電話等を通して状況把握する
2 レインコートやビニールで皮膚が露出されないようにする
3 タオル、マスクなどで鼻、口をかばって最大限遠く離れること
4 風が吹いてくる方向に優先避難
5 しかし、避難しようとする方向からガスが飛んでくる場合、風が吹いてくる方向の直角へ避難
6 室内避難後、クーラー、換気機など作動を中断する。
7 室内へ避難後、窓を閉じて外部と遮断、窓隙間、ドアの隙間、配管の隙間などラップ、テープで遮断する。
8 自動車にいる場合、クーラーなどを必ず消すこと
9 露出されたら、直ちに病院を訪問する。
10 安全なところへ避難後、きれいに洗って、着替える。
11 お隣りの家も避難したかどうか確認
12.化学物質に露出した服と靴は密封して廃棄

❽ 自動車にいる場合、クーラーを消してください



❾ 露出したら、直ちに病院に行く。

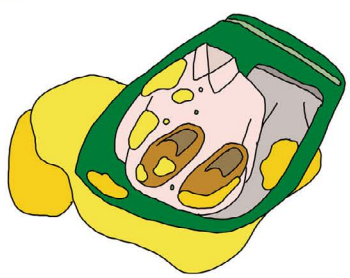


❿ 避難後、きれいに!





主人公



しないこと　DO NOT

❶❷



1 あやしい液体、固体、水蒸気の近くに近づかない
2 化学物質に露出した人の近くにちかづかないこと

火災

DO　すべきこと

❶ 脱出方法計画!
出入口または、窓



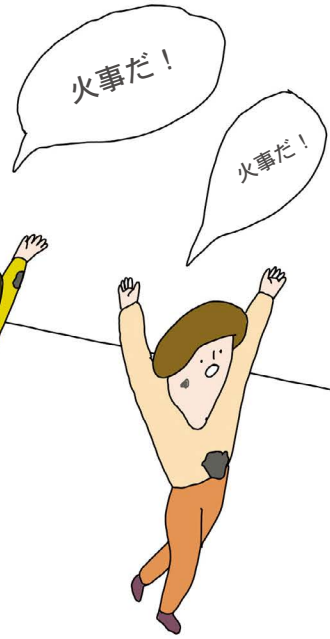
❷ 煙感知器、
全層設置!

❸ 火事発生時
取っ手が熱かったら、ドアを開けない



熱い火が反対側にある状況

大声で他の人たちに知らせながら、
至急避難



1 場所により出入口または、窓からの脱出方法を計画する(次善策も考慮)

2 煙感知器、全層に設置

3 火災発生時

・「火事だ」と大声で他の人に知らせる。
・速かに外へ避難
・低姿勢でタオルなどで鼻・口を当てて避難
・火の中を通る時、水につけた毛布やタオルで顔と体を保護する
・案内する人の案内により避難
・ドアを開ける前、ドアに手の甲を当ててみた後、取っ手をつかんだ後、熱かったら、開けない
・部屋に閉じ込められた場合、服などでドアの隙間を防ぐ
・脱出して開いたドアは全部閉じる。
・服に火がついた場合、目と口を分けて至急、底にごろんで火をなくす。

しないこと　DO NOT

❶ 再び入らない。



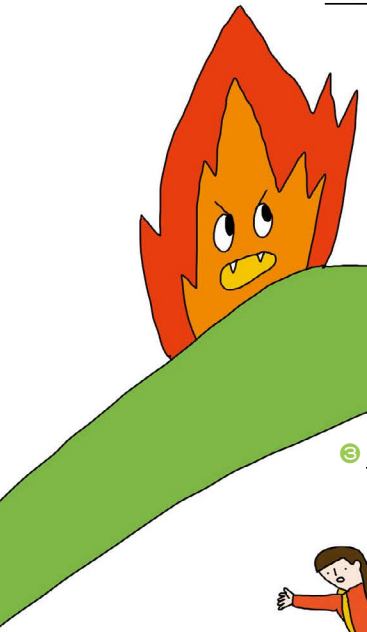
Never
絶対だめです。

1 外に出たら、絶対再び入らない。

山火事

DO　すべきこと

❶ 通報



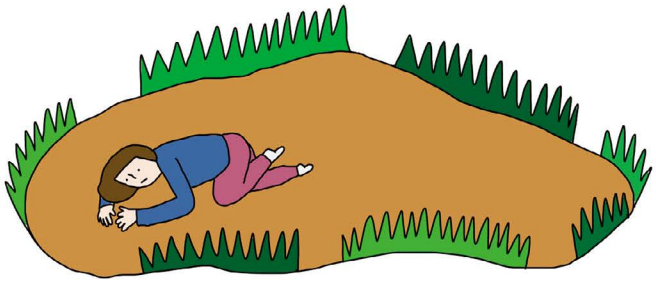
❷ 風の反対方向へ避難



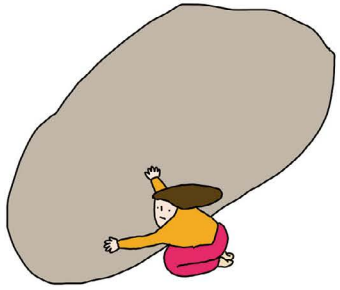
❸ 低位置で移動



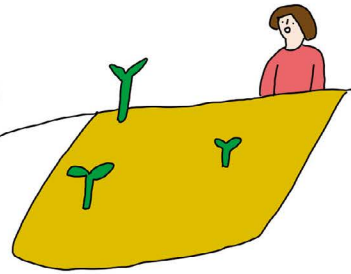
❹ 避難できなかった場合



❺ もうこげてしまったところへ避難



❻ 空地へ避難



※ 炊事は許されたところだけで!

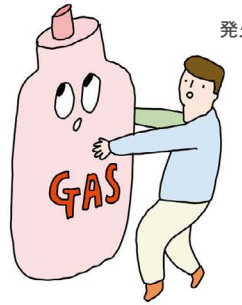


❼ 窓閉じて、水を撒いて



❽ 家の周囲を片付ける

発火要因の除去!!



1 火事を発見したら、至急、119へ通報
2 風が吹く反対方向へ避難
3 山火事より低い位置へ避難
4 避難できなかった場合、落葉などが少ないところを選んで、うつ伏せになって顔を隠すこと。
5 すでに焦げてしまったところ、低地帯、道路、岩の後などへ避難。
6 田、畑、学校など空地へ避難すること
7 窓を閉じて家の周囲に水を撒く。
8 家の周囲のガスボンベなど発火要因を除去
※ 炊事は許された地域だけで行う。

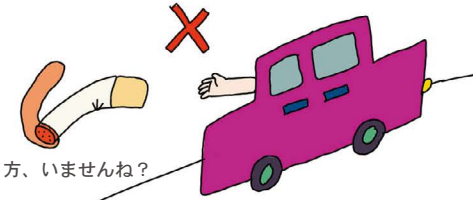
しないこと　DO NOT

❶ 登山時、



絶対、ダメです!

❷ タバコの火を捨てない



こういう方、いませんね？

1 登山時、ライター、マッチなど使わない
2 自動車の外へタバコの火捨てない

建築物崩壊

DO　すべきこと

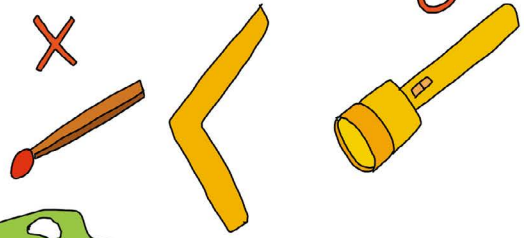
❶ 慌てずに、避難路を探す

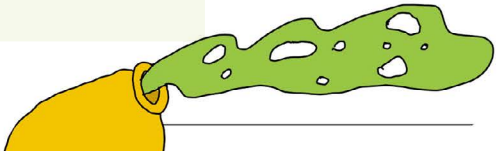


❷ 落下物に備え、頭を保護

❸ 建物の外へ脱出

❹ マッチの代わりに懐中電灯を使用





❺ 残骸に敷かれた場合、
規則的に底をたたいて救助要請

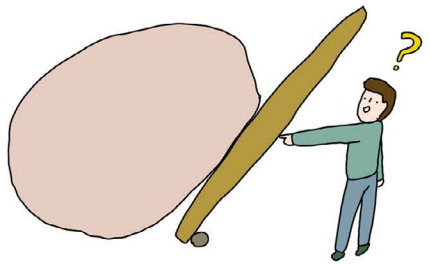


規則的にたたく

1 建物崩壊の時、慌てずに周辺を確認しながら、避難路を探す。
2 落下物に備えて座布団などで頭を保護して避難
3 緩降器、ロープなどで建物の外へ脱出
4 ガス漏出で爆発危険がある場合、マッチの代わりに懐中電灯を利用(やむをえず光が必要な場合)
5 残骸に敷かれた場合、
・不必要な体力を消耗せず、安らかな姿勢を維持
・パイプなどを規則的にたたいて救助を要請
・通じない地域でも携帯電話を一定周期で電源を入れてみる。
・指と足の指をときどき動いて血液循環をさせる。

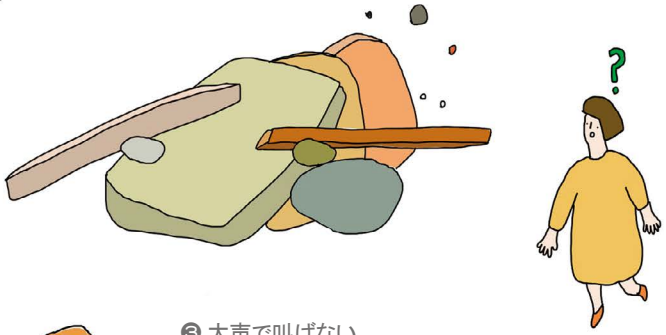
しないこと　DO NOT

❶ 障害物に触らない!



この時は、好奇心は禁物!!

❷ 崩壊現場への接近禁止!



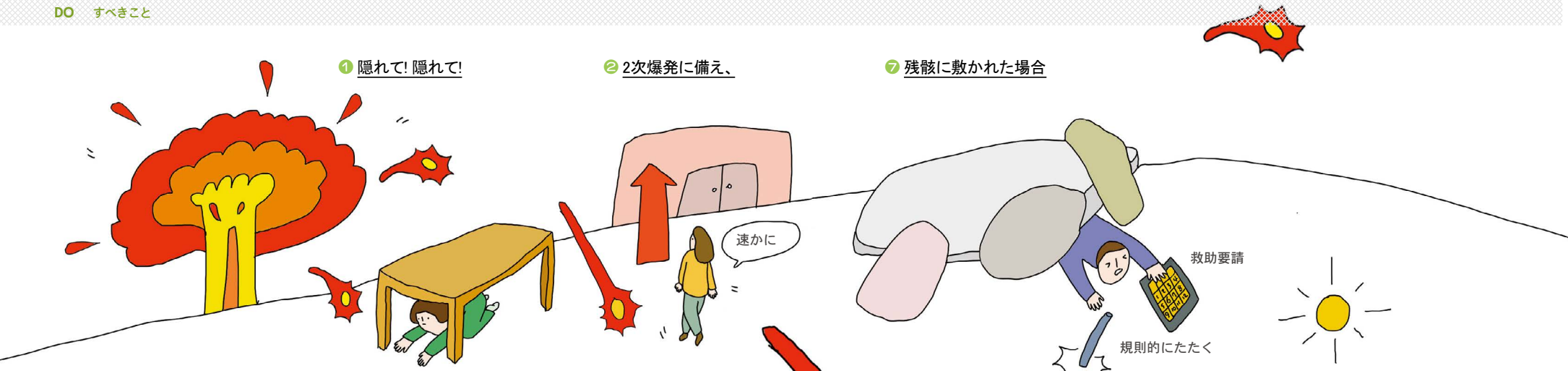
❸ 大声で叫ばない



1 移動中の障害物はできるだけ触らない。
2 崩壊現場に近づかない。
3 必要ない大声で叫んで体力を消耗しない。

爆発

DO　すべきこと



❶ 隠れて! 隠れて!

❷ 2次爆発に備え、

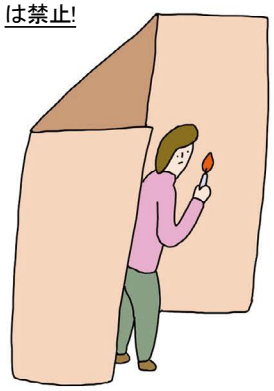
❸ 遠く離れたところへ!

❹ 耳をふさいで、低姿勢を維持!

❺ 最小限の呼吸を維持!



❻ 密閉空間での火気使用は禁止!

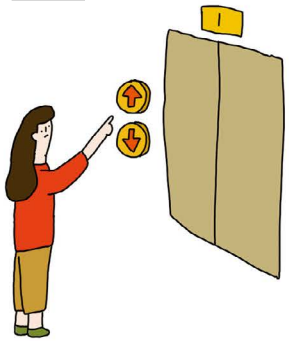


❼ 残骸に敷かれた場合

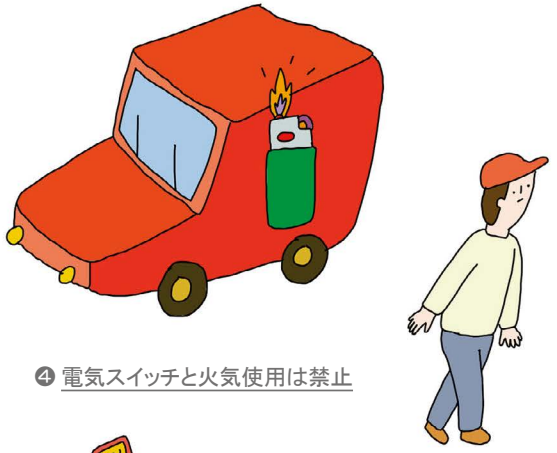
1 爆発がある場合、テーブルや机の下に入る。
2 2次爆発に備えて建物の中から至急避難
3 事故現場から遠く離れた壁がある場所に移動する。
4 避難時、耳を保護し、低姿勢を維持
5 窒息に備え、最小限の呼吸で移動
6 ホコリの多い密閉空間で火気は使用禁止
7 残骸に敷かれた場合、
・不必要な維持体力を消耗せず、落ちづいた姿勢を維持
・パイプなどを規則的にたたいて救助を要請
・通じない地域でも携帯電話を一定周期で電源を入れる。
・指と足の指をときどき動いて血液循環をさせる。

しないこと　DO NOT

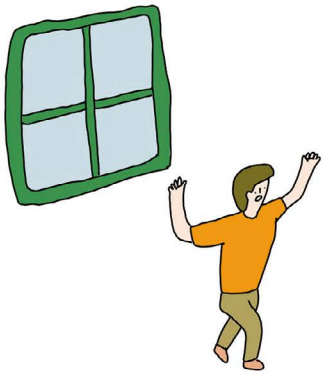
❶ エレベーターはおやめください。



❷ ライターなどを車の中に置いておかない。



❸ 窓ガラスドアから離れる。



❹ 電気スイッチと火気使用は禁止

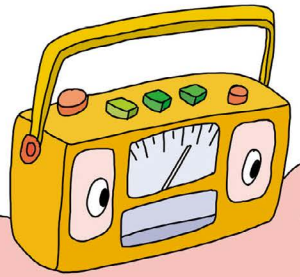


1 エレベーターは利用しない。
2 夏は、ライターなどを車の中に置いておかない。
3 窓やガラスドアの近くに近づかない。
4 追加爆発に備え、電気スイッチと火気使用などを禁止

テロ

DO　すべきこと

❶ 状況把握!!



1 TV、ラジオを通じて状況を把握する。

❷ 待ち合わせ場所を事前に決める。



2 状況発生時、待ち合わせ場所を事前に決めること。

❸ 爆発物関連



3 爆発物関連
- 疑い物品または、車両発見時、触らずに避難後、警察に通報
- 爆発する場合、直ちに底にうつ伏せになって両腕とヒジを付けて胸を保護し、耳と頭を手で保護する。
- 爆発地点の反対方向へ迅速に避難

❹ 化学生物テロ

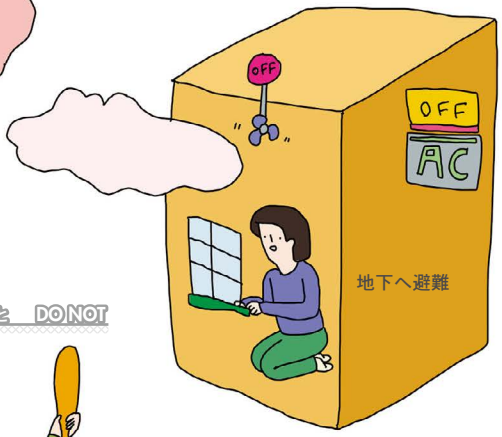


先ず、避けて→きれいに洗って→
必要であれば応急治療

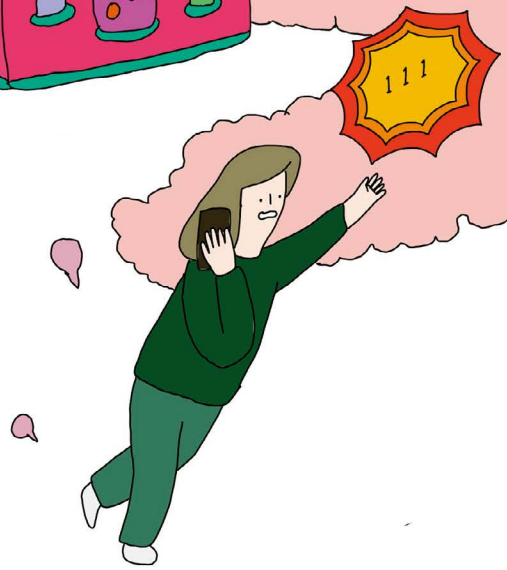
4 化学・生物テロ
- 汚染空気が感知されれば、ハンカチ、ティッシュなどで鼻と口を当てる
- 汚染地域から迅速に避難
- 化学物質に露出しれた場合、顔と手などをきれいに洗って救急治療

❺ 核爆発放射能テロ

絶対あってはいけないことだが。。。



5 核爆発・放射能テロ
- 閃光を感じられたら、反対方向へうつ伏せになって目、耳を防いで口を開けること。
- 地下避難所や掩蔽物を探して体を隠す。
- 建物などへ避難した後、窓を閉じてクーラー、換気装置など消すこと。



しないこと　DO NOT

❶ テロ犯に対抗しない。



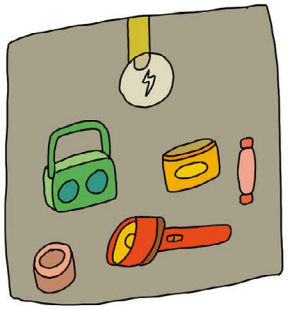
自分の体の
保護に優先する。

1 テロ犯に無理に対抗しない

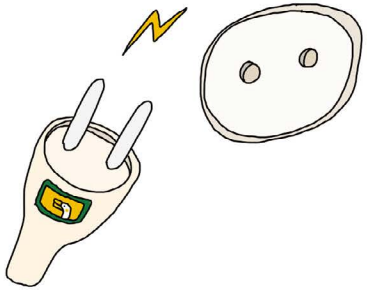
停電

DO　すべきこと

❶ 停電に備え、準備物



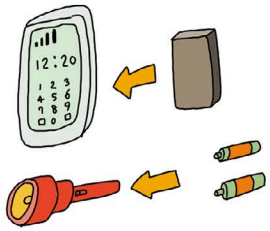
❷ プラグを取り、漏電遮断機を確認



❸ 懐中電灯を使用、キャンドルは危険!



❹ 補助バッテリー準備



❺ 開くな! 開くな!



1 停電に備えた携帯用懐中電灯など、食糧、ラジオなどを準備。

2 電気機器のプラグを取り、漏電遮断機の異常有無を確認する。

3 できるだけ懐中電灯を使う、キャンドルは火事の危険になる。

4 携帯電話、懐中電灯用の補助バッテリー準備。

5 冷蔵庫を絶対開かない(冷蔵室は約4時間、満杯になった冷凍室は48時間まで保管可能)

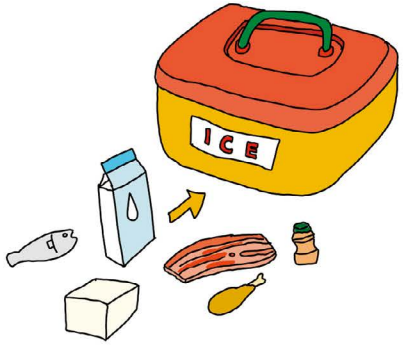
6 腐りやすい食べ物はアイスボックスに保管する。

7 (電気を再供給の時)時間間隔を置き、プラグを一つずつ差し込む。

8 冷蔵庫の食べ物を確認する。

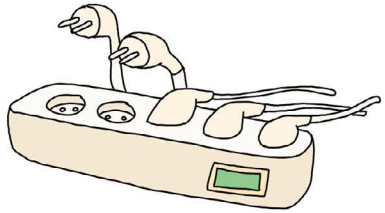
9 停電でエレベーターの停止時、落ち着いてインターホンで連絡する。

❻ アイスボックスに移動



❼ 電気の再供給の時

時間間隔を置き、プラグを一つずつ差し込む。

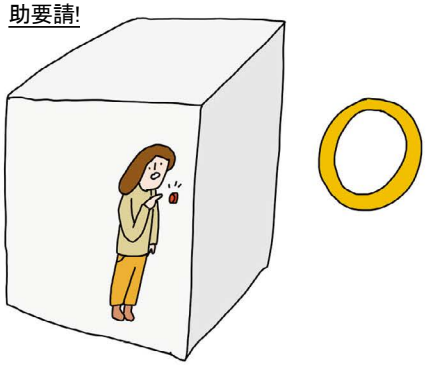


❽ 確認!

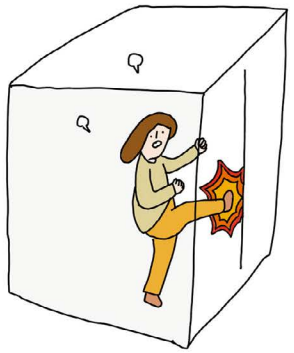


異常有無を確認後、食べること!

❾ 落ち着いて! インターホンで救助要請!



しないこと　DO NOT



❶ 無理な脱出のトライはおやめください。

慌てずに無理しなく!

1 エレベーターに閉じ込められた場合、無理に脱出をトライしない。

ガス事故

DO　すべきこと

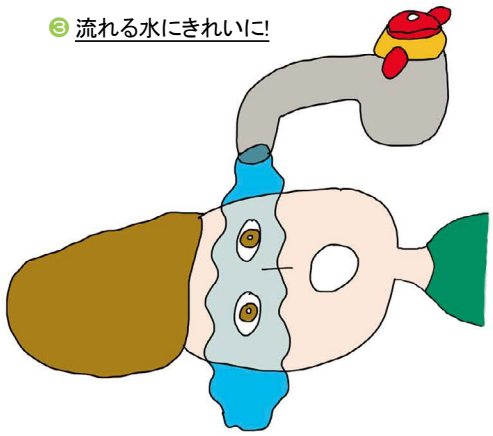
❶ ガス漏出確認! 点火!



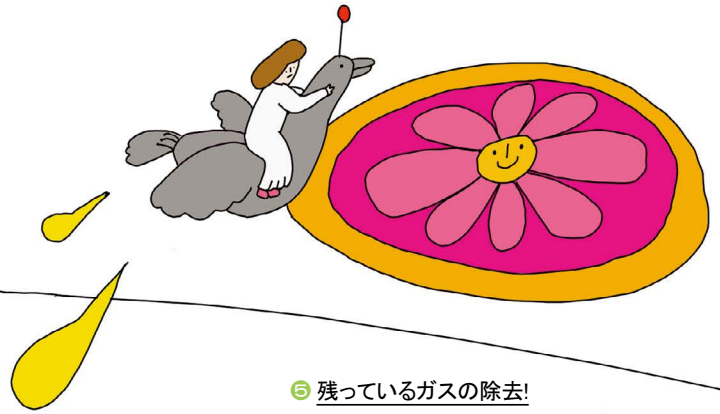
❷ 沈んだLPGガスを片付ける。



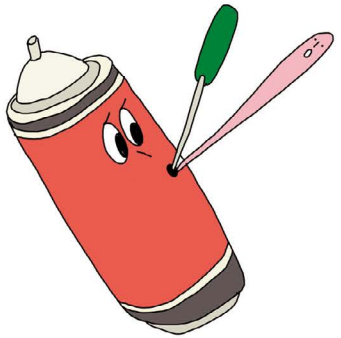
❸ 流れる水にきれいに!



❹ 遠く離れた空地へ避難



❺ 残っているガスの除去!



1 ガスを使う前、においをかいで漏出可否を確認して点火する(漏れ出ればバルブ を絞めて、窓を開けて換気)。
2 LPGガスは、空気より重いため、部屋の床に沈むのでほうきなどではき出す。
(扇風機など電気器具は使わない。)
3 ガスによって目が痛いとき、流れる水で洗うこと
4 事故場所から遠く離れた空地へ避難する。
(避難時、おしぼりで口と鼻を防ぐこと)
5 ブタンガスなどを使用後、容器に穴を突きを開けて残りのガスを除去して捨てる。

しないこと　DO NOT

❶ 大型鍋を乗せない

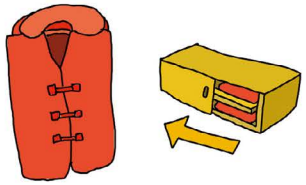


1 携帯用ガスバーナーより大型鍋を乗せない。

船舶事故

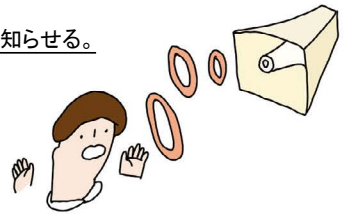
DO　すべきこと

❶ ライフジャケット及び脱出路位置確認!



→ 椅子の下や船室内に保管されている。

❷ 事故発生時、大きく知らせる。



❸ 火事時

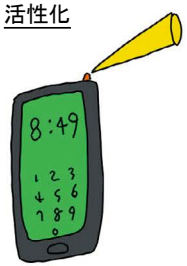


窓などを斧で破って喚起をさせる。

❹ 指示に集中



❺ 携帯電話懐中電灯モード活性化

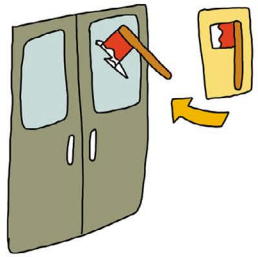


❻ 壁を手でついて、移動する。



1 ライフジャケット及び脱出路位置確認!
2 火事・座礁など、事故の発生の時、大きい声やベルでお知らせる。
3 火事は消火器で消し止めし、窓ガラスを割って、換気
4 非常状況案内及び認識時、落ち着いて船長と船員の指示に従うこと。
5 停電時、落ち着いて携帯電話懐中電灯機能を活性化
6 停電時、誘導灯などが見えなかったら、壁を手で付いて出て行く。
7 出入り口が開かなかったら、斧で窓ガラスを割って脱出する。
8 危機時、ライフジャケットを着て、水の中で行動が容易になるように靴を脱ぐ。
9 水の中に飛び込む時、二足を合わせて立った姿勢で飛び降りる。
10 水の中で活動は最小限しない。

❼ 出入り口が開かれない時



❽ ライフジャケットを着て、靴を脱いで



水の中で行動が容易になるように靴を脱ぐ。

❾ 水の中に飛び込む時



❿ 水の中で



→ 活動が多くならば、熱をさらにはやく奪われる。低体温症は生命を威嚇する。



しないこと　DO NOT

❶ 集まっていない。





1 船体の片側に集まっていかない。

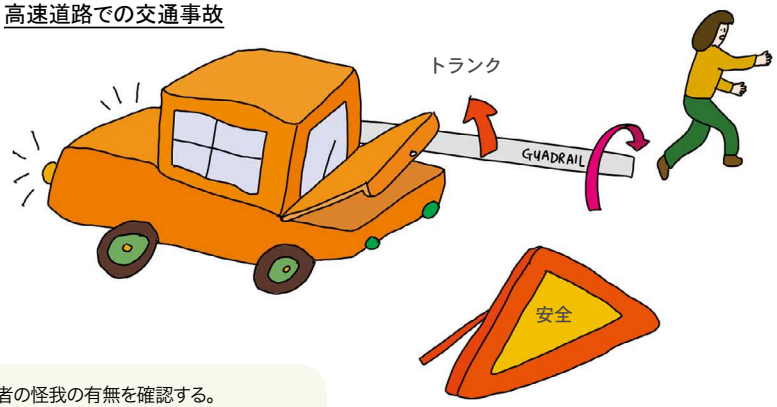
交通事故

DO　すべきこと

❶ 本人と同乗者の怪我を確認!



❷ 高速道路での交通事故

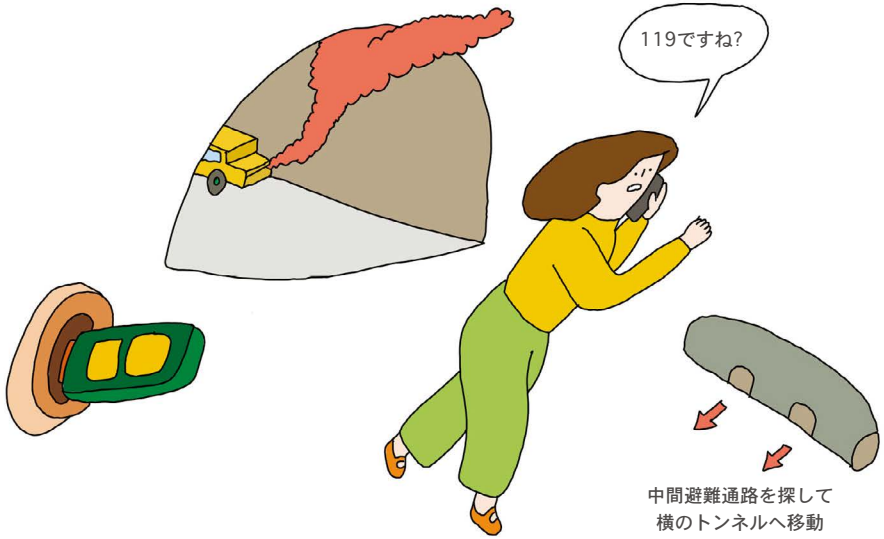


1 事故直後、本人と同乗者の怪我の有無を確認する。

2 高速道路交通事故
- 車を道路側に移して非常灯をかけた後、トランクを開ける
- 搭乗者はガドレールの外等、安全なところへ避難
- 後方に安全三角台を設置

3 トンネル内の交通事故
- トンネル内へ進入時、規定速度と安全距離維持
- 事故や火事で移動不可能な場合、車両を道端で移動した後、消してキーをさしこんでおいたまま出る。
- トンネル内の非常電話、非常ベル、携帯電話を通じて通報
- 火事煙を避けて低姿勢でトンネルの外へ避難
- 長いトンネルの場合、中間避難通路を通じて、横のトンネルへ避難

❸ トンネル内の交通事故



しないこと　DO NOT

❶ 無理な救助はおやめください。

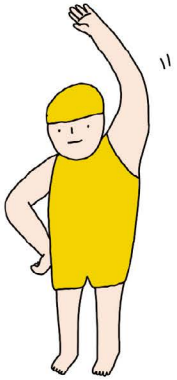


1 車にはまったケガ人を無理に助けようしない(脊椎及び頚椎損傷の恐れがある)

水遊びの安全規則遵守

DO 해야 할 것

❶ 準備運動!



❷ 心臓で遠方から水をつける。





❸ いつも保護者の視野に!



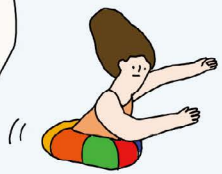
❹ 潮流変化の時間を確認

❺ 波を逆らって!



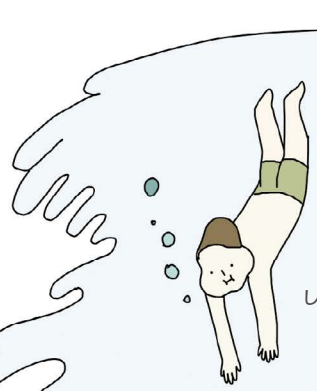


❻ 石に近づかない



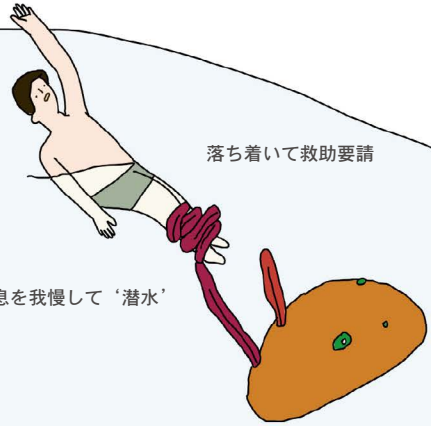
1 水遊び前、必ず準備運動をする。
2 水に入る前、心臓から遠方から水をつける。
3 子供は常に保護者の視野中に置く。
4 潮流変化の時間を確認
5 水の流れが強い時は、波を逆らって移動
6 川や渓谷を渡る時、できるだけ石は避けて渡る。
7 大きい波が覆う場合、しばらく息を我慢して潜水する(自然に再び浮び上がる)。
8 水草に巻かれた場合、動かず、落ち着いて行動する。
9 水に溺れた人を発見時、棒、チューブなど道具を利用して救助する。

❼ 大きい波が襲う場合



しばらく息を我慢して‘潜水’

❽ 手草に巻かれた場合



落ち着いて救助要請

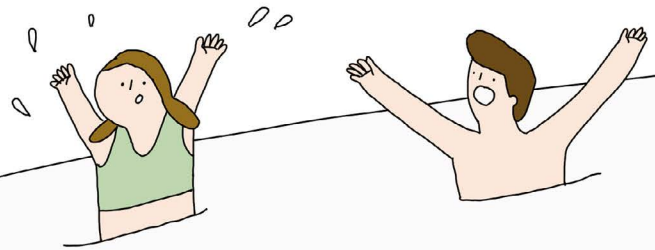
❾ 棒、チューブを利用して救助

無理に飛び込まない!

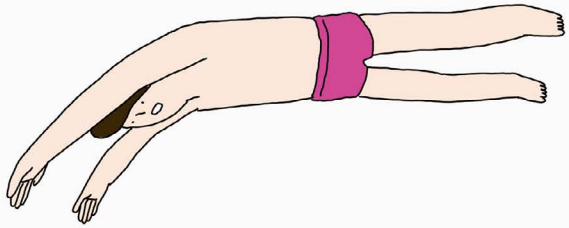
水遊びの安全規則遵守

DO NOT　しないこと

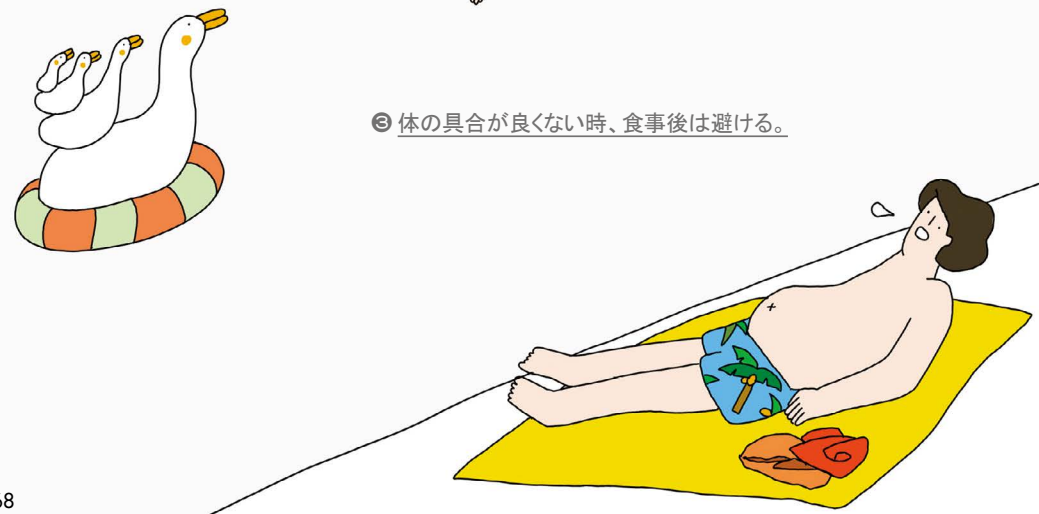
❶ いたずらはしない!



❷ むやみに飛び込まない



❸ 体の具合が良くない時、食事後は避ける。



❹ 一人では危険だ!

海岸から遠く離れない

遠くNo! No!

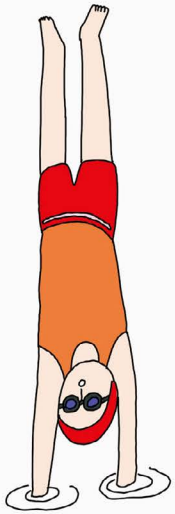
浮漂確認

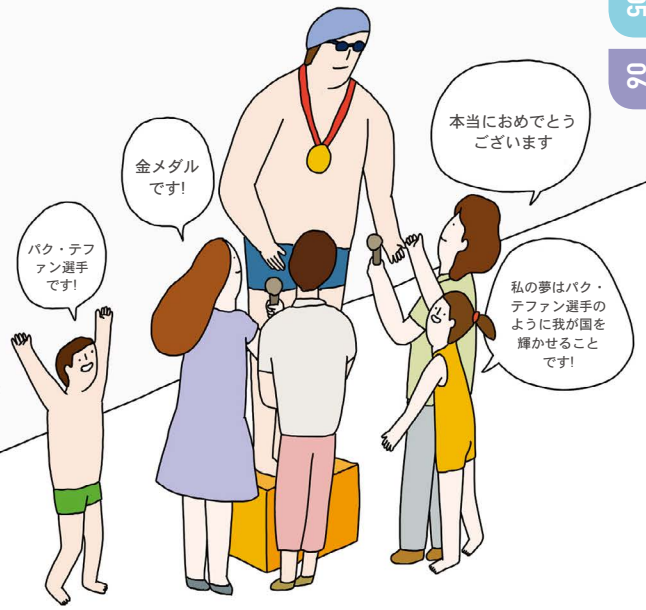
油断したら大変なことになるよ~~



❺ 油断禁物!

❻ 過信禁物!





1 水泳中“助けてくれ”といたずらをしたり、じたばたしない。
2 水に溺れた人を発見時、むやみに飛び込まない。
3 調子が良くない時、食事後は、水に入らない。
4 湖や川で一人で水泳しない。
5 浅い水だと油断しない。
6 自分の能力を過信して無理な行動はしない。

登山安全規則遵守

DO　すべきこと

❶ 天気情報集中!

❷ 準備物
非常食、常備薬、懐中電灯など

❼ 寒さと風を避けられる所へ!

❽ 暖かく保温!

❾ 蛇にかまれた場合



かまれた部位から5～10cmの上側

❸ ストレッチング



❹ 一緒にする



❿ ハチに刺された場合



⓫ 骨が折れた場合



1 天気情報を事前に調べる。
2 非常食糧、常備薬、ランタン、レインコートなどを準備する
3 登山前、ストレッチングする。
4 登山は2人以上一緒にする。
5 水をしばしば、炭水化物は少しずつ摂取。
6 突然けいれんが起こったら、靴紐を解いて、足をまっすぐにのびて足の指を体方に引いて足を解く。
7 遭難時、119に通報し、寒さと風を避けることができる所を探す。
8 寒気がして、体温が低くなれば、頭、首、わきなど熱がはやく取られるところをマフラーを利用して保温(ぬれた服は、乾いた服に着替える)。
9 蛇にかまれた場合、かまれた部位5-10m上側を結ぶ
10 ハチに刺された時、クレジットカードなどでそっとかいて、蜂の針を取り、その部位をこすらず、冷湿布後、アンモニア水を塗る
11 骨が折れた部位は冷たく維持し、木の枝などで固定
12 降りる時、低姿勢で足元をよくチョックする

❺ 水をしばしば飲む

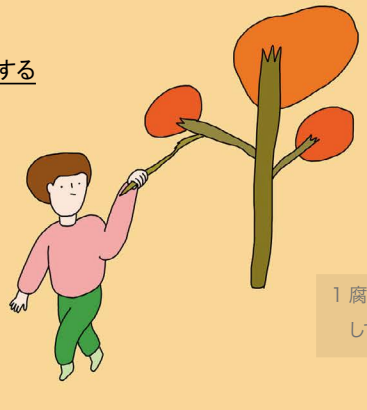


❻ けいれんが起こった時



しないこと　DO NOT

❶ 木の枝を取っ手で使わない!



❿ 山から降りる時は、低姿勢で足元をよくチョックする



1 腐った木の枝や不安定な岩を取っ手として使わない

抑留及び拉致

DO　すべきこと

❶ 無理に抵抗せずに突然行動避ける!



❷ できるだけ目立たないようにする。



❸ 素直に、刺激的言動はおやめください。

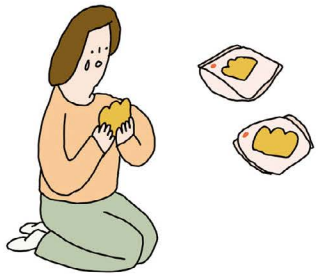




170～5cm
普通体格
目形　左側目の
下に小さいあざ
低く遅い語り口
眉間に深いシワ

❹ 健康維持

あたえられる食事は欠かさない。



1 抵抗せず、素直に応じて急な行動を避ける。
2 多数が拉致された場合、目立たないように行動する。
3 拉致犯の指示に素直に応じ、刺激する言葉はおやめください。
4 健康維持のたね、軽い運動をし、あたえる食事は欠かさない。
5 拉致犯と対話が可能であれば、友好的な関係を維持。
6 救出作戦が始まったら、すぐにうつ伏せする。
7 拉致犯のルックス、性格、音声など、特徴を覚えておく。

❺ 友好的関係維持



❻ 救出作戦が始まったら



❼ 拉致犯特徴を記憶!



しないこと　DO NOT

❶ 無理な脱出時も



❷ できるだけ目が合わない



1 安全が確保された状況ではないと、無理せず、脱出をトライしない
2 拉致犯と目を合わない

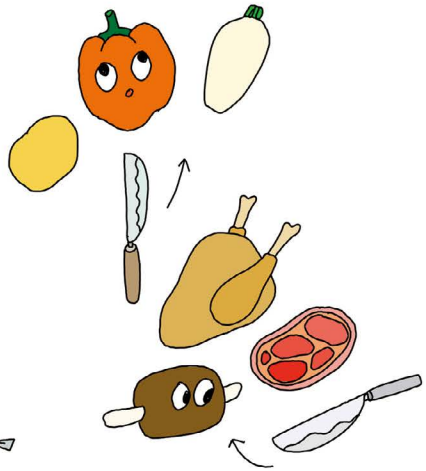
食中毒予防

DO　すべきこと

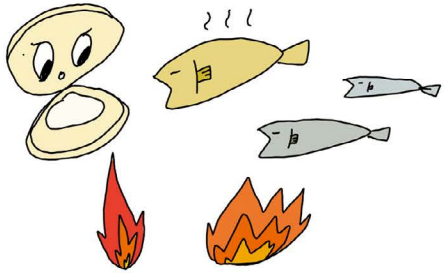
❶ よく手を洗う。



❷ 料理道具を分けて使用!

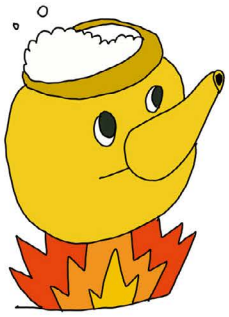


❸ 魚、貝は火で加熱する。

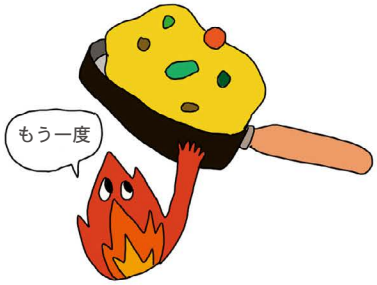


1 石鹸バブルを十分に洗い、よく手を洗う。
2 野菜用、肉類用の料理道具を分けて使用（使用の後、お湯で綺麗に洗う）。
3 魚と貝は必ず火で加熱した後、摂取
4 ミネラルウォーターよりは お湯を沸かして飲む。
5 料理済の食べ物ももう一度温かくして食べる。
6 生ものと加熱済の食べ物は別に保管
7 食べ物は冷やして冷蔵庫に保管
8 下痢、腹痛、吐き気など、食中毒症状が現れたら、病院を訪問
9 下痢が減れば、脂のない重湯やお粥から食べる

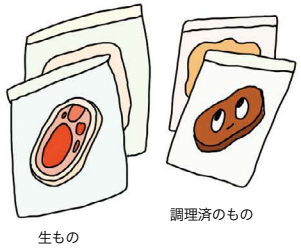
❹ お湯を沸かして飲む



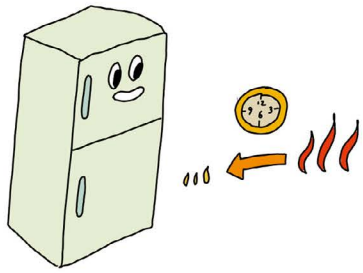
❺ 料理された食べ物も再加熱して食べる



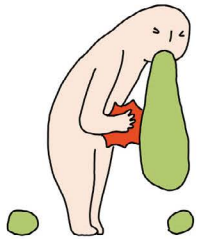
❻ 別々に保管



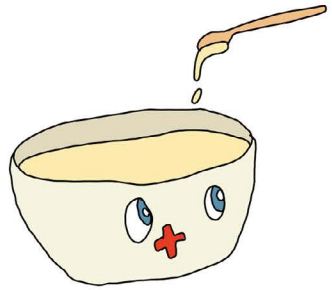
❼ 食べ物は冷やして冷蔵保管!



❽ 症状が現れたら、病院へ!



❾ 症状がおさまったら、重湯やおかゆを食べる。



しないこと　DO NOT

❶ 果物汁、炭酸飲料を避ける



1 食中毒症状が現れたら、果物汁や炭酸飲料を避ける。

エスカレーター/エレベーター安全規則遵守

DO すべきこと

❶ 停電、故障などで止まった場合、
落ち着いてインターホンで管理室に連絡!





❷ 火事時、非常階段を利用

1 停電、故障等で止まった場合
- 落ち着いてインターホンで管理室に連絡
- 無理にドアを開けるなど、任意に脱出のトライをしない。
- 救助要請で救出される場合、救助隊の指示に従う。

2 火事の時、エレベーターに乗らずに非常階段を利用する。

3 エスカレーター利用時
- ハンドレールをつかむ
- ハンドレールの外で頭も腕を突き出さない。
- 端に足がつかないようにする。
- 子供や高齢者は保護者の手を握って乗る
- 衣服、スカーフなどがスキ間に挟まらないようにご注意。

❸ エスカレーター搭乗時
ハンドレール必ず握って乗る

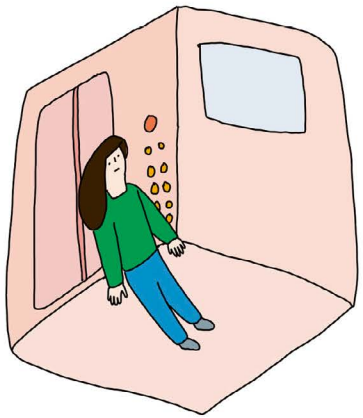


しないこと DO NOT

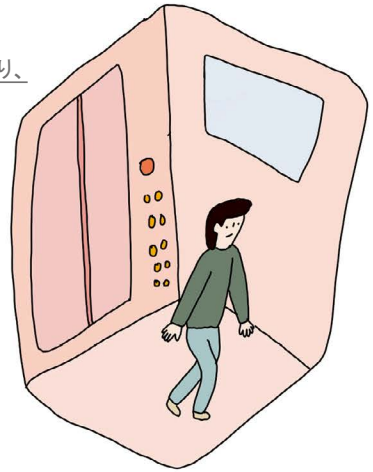
❶ 過度な衝撃を加えない!



❷ 不注意にもたらない



❸ 歩いたり、走ったり、しない。

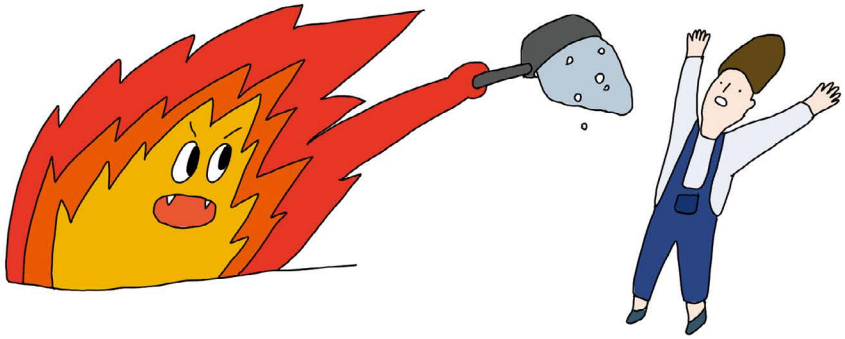


1 エレベーター中で足を踏んだり、衝撃を与えない。
2 エレベータ出入り口に寄り添わない。
3 エレベーター及びエスカレーターの上では歩いたり走らない。

火傷感電事故

DO　すべきこと

❶ 危ない、危ない

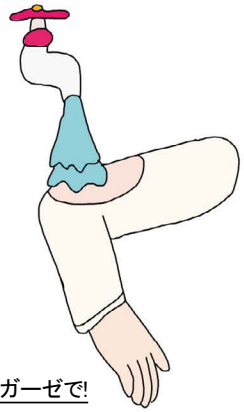


❷ 安全なところへ移動!

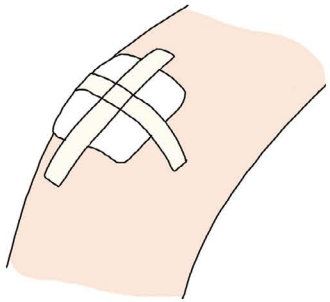


患者

❸ 火傷をしたら、冷たい水で10～15分ぐらい冷やす

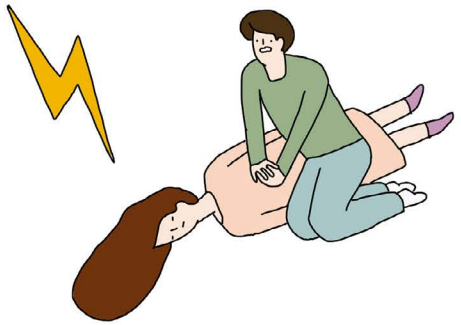


❹ 傷部位は消毒済のガーゼで!



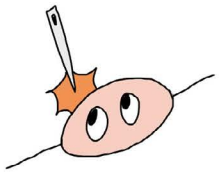
1 お湯、煙、火、強い化学物質、電気などを使用時、注意する。
2 患者は安全なところへ移す。
3 火傷部位を流れる冷たい水で10-15分ぐらい冷やす(水に服を着たまま水に浸ける)。
4 傷部位は消毒済のガーゼで処置
5 電気感電の時
・周りが安全なのかを確認の上、患者を至急電源から分離
・呼吸をせず、心臓が動かなかったら、至急心肺蘇生法を実施!
・患者に異常がないように見えても、体の深くには火傷をする場合がありますので、病院で精密検査を受ける。

❺ 電気感電時

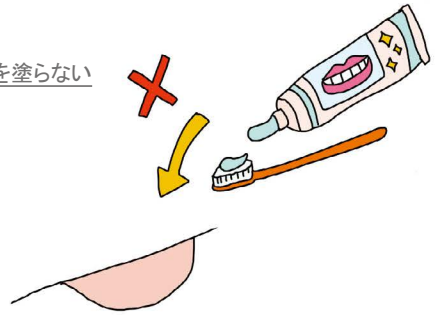


しないこと　DO NOT

❶ 傷、患部をタッチしない。



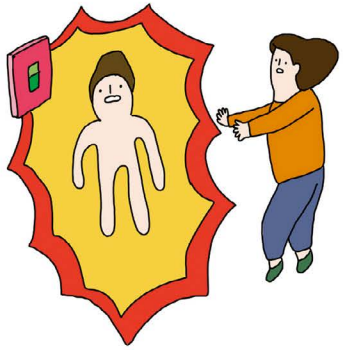
❷ 異質物を塗らない



❸ 火傷部位の服を無理に脱がさない。



❹ 直接、取らない



1 水泡はそのまま置いておく。
2 火傷部位に韓国式味噌、歯磨き粉など異質物を塗らない。
3 火傷部位にくっついた服を無理やりに脱がさない。
4 感電した患者を直接引き離そうとしない(電気スイッチをおろして電気供給中断)

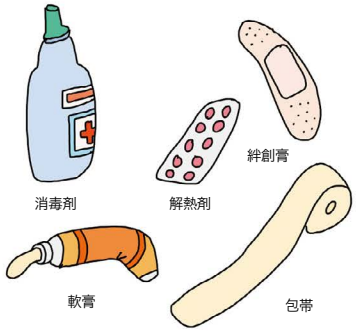
戦争時行動要領

DO　すべきこと

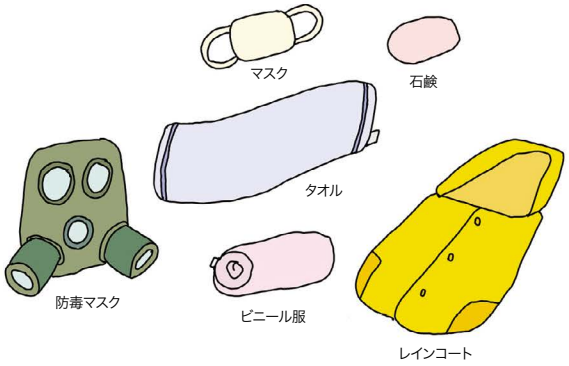
❶ 準備1



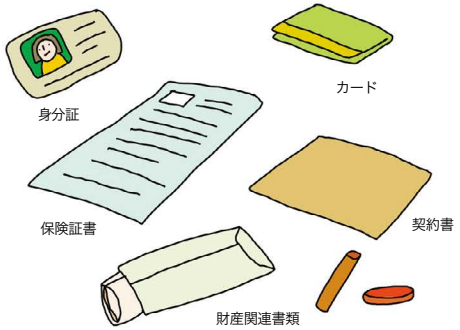
❷ 準備2



❸ 準備3



❹ 準備4



1 食糧(米、ラーメン、缶詰めなど、30日分)、炊事道具、ラジオ、リュックサック、携帯用電灯、キャンドル、マッチなど

2 消毒剤、解熱剤、消化剤、止瀉剤、軟膏、包帯、絆創膏、三角巾

3 防毒マスク、タオル、マスク、ビニール服、レインコート、石鹸、合成洗剤、接着テープ(窓枠、ドア枠の密閉用)

4 身元証明書、財産関連書類、契約書、保険証書など

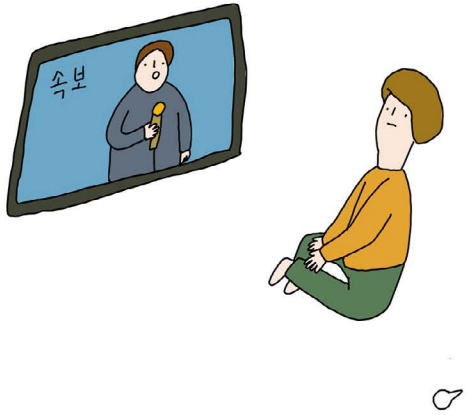
5 政府の放送(テレビ、ラジオ)をよく聞いて、案内に従って行動

6 避難令の発令時、非常に備え、物資を持って迅速に避難(運行中の車両は、空地や右側に止めた後、避難)

7 敵からの砲撃挑発時
- アパート、高層建物ではエレベーターの代わりに非常階段を利用して避難
- 最大限低姿勢に移動して爆発火災及び破片にご注意
- 建物残骸に閉じ込められた場合、無理に出てこない
- 漏出ガスによる爆発危険があってマッチ、ライターなど使用
- 避難所に移動が難しい場合、溝などところにうつ伏せして体を隠す。

8. 政府統制に積極的に協力

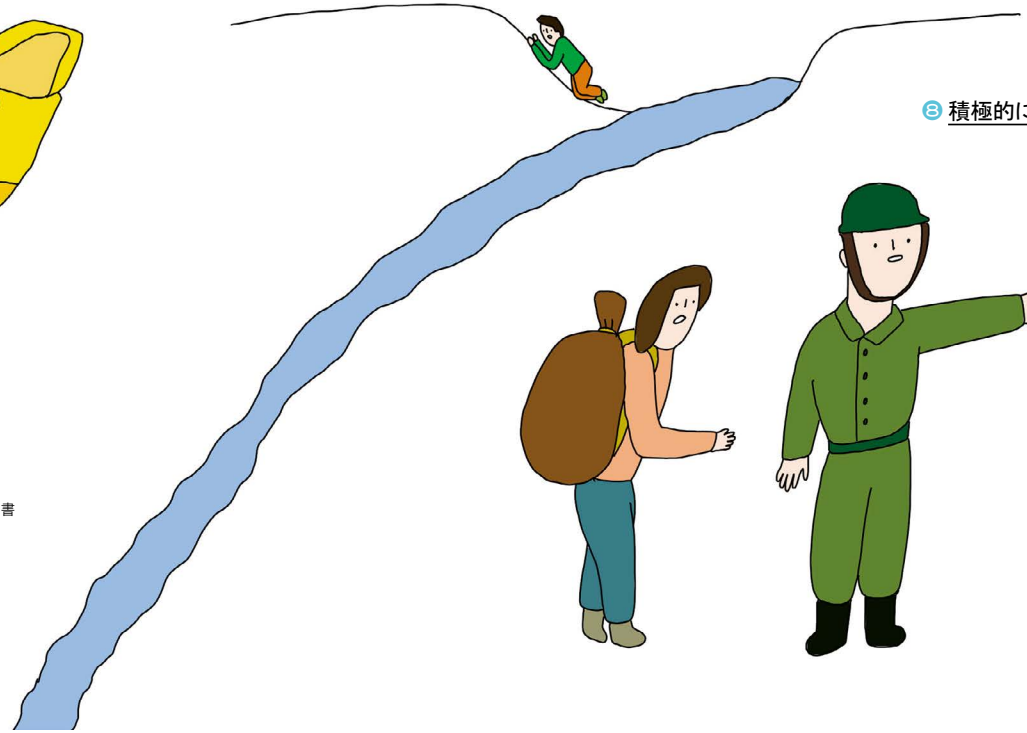
❺ 政府放送案内に集中!



❻ 政府放送案内に集中!



❼ 敵からの砲撃挑発時、安全なところへ避難



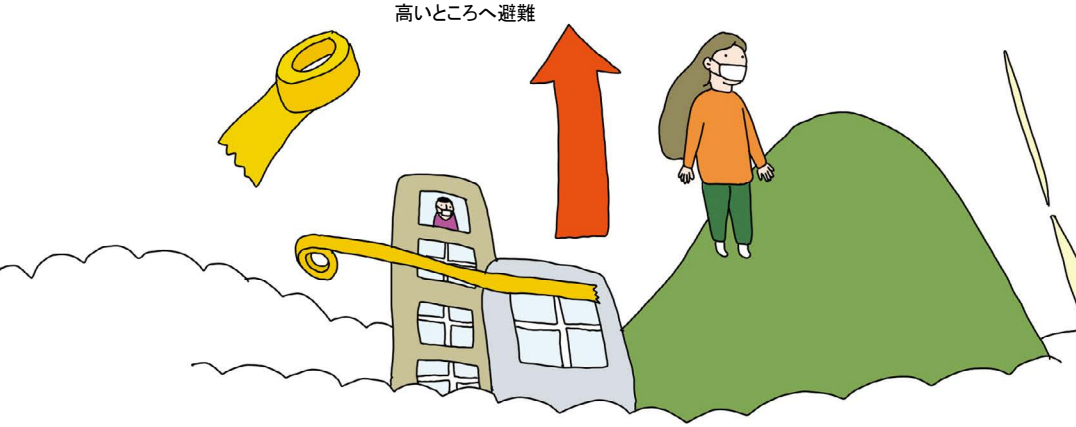
❽ 積極的に協力

化学兵器攻撃時、行動要領

DO　すべきこと

❶ 化学そなえ攻撃時

高いところへ避難



❷ 生化学兵器の攻撃時

「防毒マスク、マスク着用後」至急、避難!!

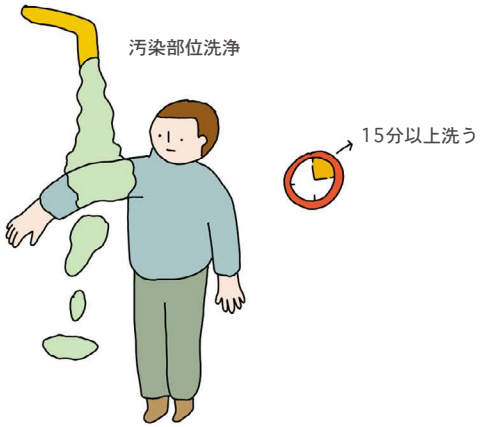


❸ 核兵器の攻撃時









1 化学兵器攻撃時
- 防毒マスク、マスクなど着用後高地帯や高層建物室内へ避難
- 出入り口、窓、換気機は接着テープで密閉
- 汚染された部位は石鹸、洗剤で流れる水に15分以上洗う
- 汚染された靴、服は密封後、廃棄

2 生化学兵器攻撃時
- 防毒マスク、マスクなど着用後迅速に避難
- 汚染物質及び患者とは接触禁止
- 政府案内に従って、感染有無確認及び予防接種などで治療
- 食べ物と水は沸かして食べて、及び周辺清潔を維持

3 核兵器攻撃時
- 迅速に地下避難所または、地下施設へ避難
- 閃光を感じれば、爆発方向へうつ伏せになって目と耳を全部防いで口を開ける。
- 放射能落塵地域から避難し、ビニール、レインコートなどで身体露出を最小化

119への通報にも要領があります!

正確な災害位置を通報する。

正確な情報が早い出動ができます。

一般災害の場合	住所、周辺のビル名、アパート名(～棟まで)
高速道路の場合	○○高速道路　○○方向○○から～km支点
現在の位置をよく分からない場合	周辺の電信柱の電算化番号、エレベーター管理番号等
一般道路、野外の場合	道路名(○○通り等)、交通表示板、ケータイGPS座標等

火災通報の場合

より詳しく説明していただければ、早く、適切な人員の出動ができます。



- ☐ 建物中から抜け出していない人はいるか?
- ☐ 子供、高齢者、障碍者などがいるか?
- ☐ 何階で火事が発生、何の用途の(住宅、アパート、工場、レストランなど)建物か?
- ☐ 今、燃えている燃焼物は何か?(プラスチック、ゴム、危険物)
- ☐ 横の建物に拡大される恐れはあるか?
- ☐ 火事の規模はどれくらいか?
- ☐ 消防車が進入するまで、困ることはないか?

交通事故の場合

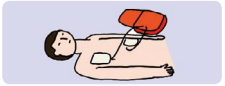
正確な状況案内が救急車の出動規模と救助車両編成、もし、
発生する恐れがある2次の被害を防ぐことができます。



- ☐ 車両内の患者は何人か?
- ☐ 救助が必要な人が車両内から出てこないことはないか?
- ☐ 車両から煙が出ているかか?

救急事故の場合

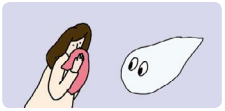
患者状態に対する詳しい案内が救急車の追加編成と医療指導に役に立ちます。



- ☐ 患者の状態はどうか?
- ☐ 失神した患者の場合、呼吸があるか、意識はあるか?

化学物質申告の場合

化学物質流出及び漏れの場合、科学物質の関する事前情報提供が重要です。



- ☐ 事故発生時間及び場所
- ☐ 事故内容及び事故原因、被害程度(現況)
- ☐ 通報者または、事業場の連絡先(氏名、電話番号)

災害状況に備えて、家族と一緒につくりましょう。

待ち合わせ場所を決める

万が一、学校や職場など、離れている時、
災害に逢って、家族と連絡ができない時はここでで会いましょうね!

01

安否方法を決める

災害が発生した時、万が一、電話がつながらない時
家族間の安否はこのように確認しましょう。

02

役割を決める

災害が発生した時、家族が行う役割を分け、
もし一人になったら、どうするかも決めてみましょう。

03

避難方法を決める

非常時、避難する方法をあらかじめ、確認してみましょう。
一つの方法でなく、できれば、多様な方法を確認してみましょう。

04

私とうちの家族の情報

本人情報	氏名			
	生年月日			
	住所			
	連絡先			
	血液型	A　B　O　AB	Rh	+　-
	アレルギーの有無			
	服用薬			
	その他			

家族情報	氏名			
	生年月日			
	住所			
	連絡先			
	血液型	A　B　O　AB	Rh	+　-
	アレルギーの有無			
	服用薬			
	その他			

私とうちの家族の情報

家族情報		
	氏名	
	生年月日	
	住所	
	連絡先	
	血液型	A　B　O　AB　Rh　+　-
	アレルギーの有無	
	服用薬	
	その他	

家族情報		
	氏名	
	生年月日	
	住所	
	連絡先	
	血液型	A　B　O　AB　Rh　+　-
	アレルギーの有無	
	服用薬	
	その他	

家族情報		
	氏名	
	生年月日	
	住所	
	連絡先	
	血液型	A　B　O　AB　Rh　+　-
	アレルギーの有無	
	服用薬	
	その他	

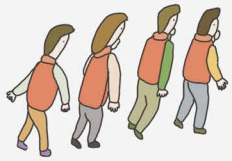
家族情報		
	氏名	
	生年月日	
	住所	
	連絡先	
	血液型	A　B　O　AB　Rh　+　-
	アレルギーの有無	
	服用薬	
	その他	

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO





災害安全
ガイドブック

発　行　日　2017年 1月
発　行　人　京畿道 知事
発　行　処　京畿道
発刊登録番号　71-6410000-000764-01
イラストレーション　イ・オンジョン
デ ザ イ ン　ファンジョンフイ
印　　刷　(株)ワンサンジョン版

本カイドブックの著作権は、京畿道に帰属し、発行処の他、無断に転載、コピー・複製または、写真およびその他の情報機器によって利用することはできません。



119



112



110